平成３０年度
しまくとうば県民意識調査
報　　告　　書

平成３１年３月

沖　　縄　　県

目次

第１章　調査の概要 1
　１．　調査の目的 1
　２．　調査内容 1
　３．　調査実施期間 1
　４．　調査対象者の抽出方法 1
　５．　調査方法 1
　６．　調査対象者の抽出方法 1
　７．　調査実施期間 1
　８．　集計・分析上の注意事項 2
第２章　調査結果の総括 4
　１．　調査結果のポイント 4
　２．　総括 7
第３章　調査結果 8
　１．　調査対象者の属性 8
　　(1)　性別 8
　　(2)　年代 9
　　(3)　子どもの有無 10
　　(4)　出生地 11
　　(5)　居住地区 12
　２．　「しまくとぅば」に対する親しみ 13
　３．　「しまくとぅば」に対するイメージ 15
　４．　「しまくとぅば」に対する理解度 16
　５．　「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況 18
　６．　「しまくとぅば」の使用頻度 20
　７．　「しまくとぅば」を使う相手 22
　８．　ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識 23
　９．　普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性 25
　１０．「しまくとぅば」の普及に必要なこと 27
　１１．子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識 28
　１２．学校の授業科目に「しまくとぅば」を加えること 30
　１３．家庭内での「しまくとぅば」への取り組み状況 31
参考資料　調査に使用した調査票 33

第１章　調査の概要

１．調査の目的

沖縄県では、「しまくとぅば」の普及継承を重要施策と位置づけ、平成 25 年度に、「しまくとぅば普及推進計画（10 カ年計画）」を策定し普及継承に取り組んでいる。

「しまくとぅば」は、地域の伝統行事等で使用される大切な言葉であるとともに、組踊や琉球舞踊、沖縄芝居等といった沖縄文化の基層となる言葉である。

県民の皆様の「しまくとぅば」に関する調査を行うことで、その実態を把握し、今後の「しまくとぅば」の普及に向けた課題と効果的な普及方法を検討するために本調査を実施した。

２．調査内容

平成 29 年度に実施した「しまくとぅば県民意識調査」の集計方法と同じ手法で、「しまくとぅば」に対する県民の意識や普及の度合いについて調査。

・調査対象：沖縄県内に在住する 18 歳以上の男女
・調査地区：県内全市町村
・回収実績：2,552 件

※県民全体の縮図となるように、対象調査地区人口及び年齢構成比に応じ、調査件数を比例分配し市町村毎の件数を決定した。

３．調査実施期間

平成 30 年 12 月 26 日（水）～平成 31 年 2 月 15 日（金）

４．調査対象者の抽出方法

抽出方法は下記のとおり

①市町村別人口構成比に応じて、市町村別調査対象者数を設定
②2,500 件回収目標につき、回収率 99%想定で必要件数を 2,525 件に設定
③2,525 件を市町村別人口構成比に応じて按分
④各市町村における商業施設やイベント会場、個人宅等を調査地点として設定

市町村別人口、人口構成比、調査対象者数は３ページを参照。

５．調査方法

調査員による訪問留置法及び訪問面接法で実施した。

６．調査対象者の抽出方法

エリアサンプリングにて実施した。

７．調査実施期間

株式会社ゼンリンインターマップ

８．集計・分析上の注意事項

回答者数は「ｎ」で標記している。

集計値は、原則として回答数の合計を 100 とした場合の構成比で、小数点第２位以下を四捨五入した値で示している。このため、内訳の合計が 100%にならない場合がある。

複数回答（２つ以上の選択肢を回答）は原則として 100%を超える。

平成 29 年度に実施した「しまくとぅば県民運動推進事業県民意識調査報告書」との比較については、本調査と調査対象、調査方法等が異なるため確報値としての単純比較は難しいが、どのような推移、傾向が見られるのかという点を分析することとした。

図表１　市町村別人口、人口構成比、回収数

市町村	2018年 住基人口 (総数)	2018年 住基人口 (15歳～75歳)	人口 構成比	回収 目標数	回収 目標率	回収済み 件数
沖縄県	1,287,013	1,052,820	100.0%	2,525	99%	2,552
那覇市	286,144	233,534	22.2%	560	99%	561
宜野湾市	85,235	70,958	6.7%	170	99%	170
石垣市	42,909	35,311	3.4%	85	99%	87
浦添市	99,882	82,860	7.9%	199	99%	199
名護市	55,127	45,305	4.3%	109	99%	109
糸満市	53,111	43,870	4.2%	105	99%	105
沖縄市	123,445	101,576	9.6%	244	99%	245
豊見城市	54,797	45,803	4.4%	110	99%	111
うるま市	108,192	88,173	8.4%	211	99%	211
宮古島市	48,228	38,128	3.6%	91	99%	91
南城市	38,504	30,693	2.9%	74	99%	74
国頭村	4,445	3,339	0.3%	8	99%	8
大宜味村	2,877	2,169	0.2%	5	99%	6
東村	1,659	1,278	0.1%	3	99%	3
今帰仁村	8,561	6,540	0.6%	16	99%	19
本部町	11,935	9,360	0.9%	22	99%	23
恩納村	9,217	7,410	0.7%	18	99%	20
宜野座村	5,146	4,105	0.4%	10	99%	11
金武町	10,029	7,819	0.7%	19	99%	19
伊江村	4,171	3,137	0.3%	8	99%	8
読谷村	36,115	29,479	2.8%	71	99%	71
嘉手納町	12,124	9,583	0.9%	23	99%	24
北谷町	25,095	20,681	2.0%	50	99%	50
北中城村	14,940	12,096	1.1%	29	99%	33
中城村	17,941	14,875	1.4%	36	99%	36
西原町	30,806	25,668	2.4%	62	99%	62
与那原町	16,900	14,060	1.3%	34	99%	34
南風原町	32,877	27,489	2.6%	66	99%	66
渡嘉敷村	609	476	0.0%	1	99%	3
座間味村	802	643	0.1%	2	99%	3
粟国村	653	447	0.0%	1	99%	1
渡名喜村	352	242	0.0%	1	99%	1
南大東村	1,091	851	0.1%	2	99%	2
北大東村	498	408	0.0%	1	99%	1
伊平屋村	1,122	841	0.1%	2	99%	2
伊是名村	1,303	992	0.1%	2	99%	3
久米島町	7,185	5,562	0.5%	13	99%	14
八重瀬町	26,732	21,994	2.1%	53	99%	53
多良間村	1,048	807	0.1%	2	99%	2
竹富町	3,718	3,022	0.3%	7	99%	7
与那国町	1,488	1,236	0.1%	3	99%	4

第２章　調査結果の総括

１．調査結果のポイント

「しまくとぅば」に対して79.1％の県民が「親しみがある」と回答。平成29年度と比較すると「親しみがある」の回答が微減。

●「しまくとぅば」に対して、「親しみを持っている」が41.2％、「どちらかといえば親しみを持っている」の回答が37.9％で、これらを合わせると、79.1％の県民が「しまくとぅば」に対して親しみを持っていると回答している。

●平成29年度の調査結果と比較すると、「親しみを持っている」が39.1％、「どちらかといえば親しみを持っている」が40.9％で合算すると80.0％となり、昨年比0.9％減少となる。

県民の６０％以上が「しまくとぅば」に対して「面白い」「明るい」「身近」「誇らしい」をイメージしている。

●「しまくとぅば」について12の項目について質問。最も回答率が高かったのは「面白い」で69.0％だった。次いで「明るい」66.5％、「身近」62.9％、「誇らしい」60.0％と続く。50％台の回答率では、「やわらかい」54.3％、「感情的」53.7％となっている。

県民の62.8％が、「しまくとぅば」の理解度について「よくわかる」「ある程度わかる」と回答。平成29年度調査と比べ微増。

●「しまくとぅば」についての理解度については、「よくわかる」が15.5％、「ある程度わかる」が47.3％で、県民の62.8％が一定の理解がある。

●平成29年度調査では「よくわかる」「ある程度わかる」の合算値は61.1％で、前回調査と比べると微増。

県民の90％以上の県民が「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントに参加したことがない。

●「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況についてみると、全体では「参加したことがある」が9.4％、「参加したことはない」が90.6％と、圧倒的に参加経験がない県民が多くなっている。

「しまくとぅば」を主に使う、共通語と同じくらい使う県民は 24.8%。挨拶程度以上で使う県民は４９.8%である。

●「しまくとぅば」の使用頻度は、「しまくとぅば」を主に使うが 6.1%、「「しまくとぅば」と「共通語」を同じくらい使う」が 18.7%、「挨拶程度使う」が 25.0%だった。

●性別では男性のほうは使用率が高く、「「しまくとぅば」を主に使う、共通語と同じくらい使う」では、男性が 29.6%、女性では 20.7%で大きな差がある。

●年代別では「「しまくとぅば」を主に使う、共通語と同じくらい使う」では 10 代が 10.7%、20 代が 13.5%、30 代が 15.5%、40 代が 17.1%、50 代が 18.9%、60 代が 44.0%、70 歳代以上が 59.0%となり、高齢になるにつれ、使用頻度が高くなる傾向にある。

「しまくとぅば」を使う相手は「友達」が 44.4%を占めており、平成 29 年度と同じ傾向である。

●「しまくとぅば」を使う相手は、「友達」が最も高く 44.4%、次いで「父母」で 31.7%、「祖父母」27.4%、「兄弟」で 21.3%、「親戚」で 20.5%と続いている。

●性別では男女共に「友達」が最も高くなるが、男性 54.5%、女性 35.6%と 18.9%の開きがある。

43.9%の県民がビジネスや公共の場で「しまくとぅば」を使うことに肯定的である。

●「しまくとぅば」のビジネスや公共の場で使用してもいいと思うかについてみると、全体では「そう思う」が 20.9%、「ややそう思う」が 23.0%となっており、これらを合算すると、ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」使用に対する肯定的な割合は 43.9%である。「あまりそう思わない」の 17.2%、「そう思わない」の 11.2%を合算すると 28.4%である。

●年代別でみると、10 代～30 代では肯定的な割合が低くなっているものの、60 代では 57.1%、70 歳代では 60.7%と、肯定的な割合は年代が上がるにつれて高くなる傾向にある。

普段の生活の中で「しまくとぅば」は「必要」とする県民は 78.6%で、平成２９年度と比較すると微増。

●普段の生活の中で「しまくとぅば」は必要だと思うかについてみると、全体では「非常に必要だと思う」が 18.9%、「ある程度必要だと思う」が 59.7%となっており、これらを合わせた必要度は 78.6%となっている。

●平成 29 年度の調査結果では 76.7%の県民が「しまくとぅば」を必要と回答している。今回の調査結果では微増となり、県民生活において「しまくとぅば」の必要性は依然として高い。

●年代別でみると、10 代では必要度が 70%以下となっているものの、30 代以上では 80%を超えている。

今後「しまくとぅば」を普及させるためには「学校の総合学習等での実施」が最も高い。

●「しまくとぅば」の普及に必要なことについては、「学校の総合学習等での実施」が 63.9%で最も高く、次いで「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したＰＲ」が 50.3%、「「しまくとぅば」講座を開設」で 33.7%となる。

●29 年度と比較すると、29 年度も同様に「学校の総合学習等での実施」、「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したＰＲ」、「「しまくとぅば」講座の開設」の順で高くなっている。

県民の 81.0%が子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになって欲しいと肯定的である。

●子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになってほしいと思うかについては、「是非、使えるようになって欲しい」が 31.0%、「できれば、使えるようになって欲しい」が 50.0%で、合算すると 81.0%が子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになって欲しいと回答している。

●年代別では、年代が高くなるにつれ、肯定的である。

●地区別に見ると、「是非、使えるようになって欲しい」と「できれば、使えるようになって欲しい」の合算が北部地区では 88.5%で全体平均よりも 7.5%高くなっている。

「しまくとぅば」を学校の授業科目に加えることについては「行事や日常の挨拶等、授業以外での活動で取り組んで欲しい」が 51.1%で半数以上の回答である。

●学校の授業科目に「しまくとぅば」を加える事については「行事や日常の挨拶等、授業以外での活動で取り組んで欲しい」が 51.1%で最も高い。「どちらともいえない」は 25.1%、「他の教科の授業を減らしてでも、是非、加えて欲しい」は 12.9%である。

家庭内での「しまくとぅば」への取り組みについては、「積極的に教えている」、「時々教えている」が 50.9%。

●「子どもがいる」と回答した 1,598 人に対して、家庭内での取り組み状況を確認。「積極的に教えている」が 8.8%、「時々教えている」が 42.1%で合算すると 50.9%であり、「ほとんど教えることはない」の 49.1%をわずかに上回っている。

２．総括

「しまくとぅば」について、県民の約 79.1%が親しみを持っている。また、「しまくとぅば」の必要性については 78.6%で、平成 29 年度の調査と同様の傾向であり、県民の意識としては「しまくとぅば」の重要性は高いといえる。

しかし、「使用頻度」については、平成 29 年度の調査から減少している。

県民は「しまくとぅば」に対して、「面白い」「明るい」「身近に感じる」「誇らしい」というイメージを持っている。逆に「丁寧」「明瞭」「さわやか」「かっこいい」では県民のイメージが弱く、普及継承という観点からも「面白い」「明るい」「身近に感じる」「誇らしい」という面を訴求していく必要がある。

県民の多くが子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになってほしいという肯定的な意見を持っており、学校での学習等の実施やテレビ・ラジオ等、マスコミを利用した PR 活動が普及に必要と考えられる。

本調査を通じ、年代別で回答率に大きな差が見られた。60 代、70 代の高年層と比較すると、10 代や 20 代の若年層の「理解度」や「使用頻度」が低いため、普及・継承の観点から若年層への理解浸透や話す機会を提供していく必要がある。

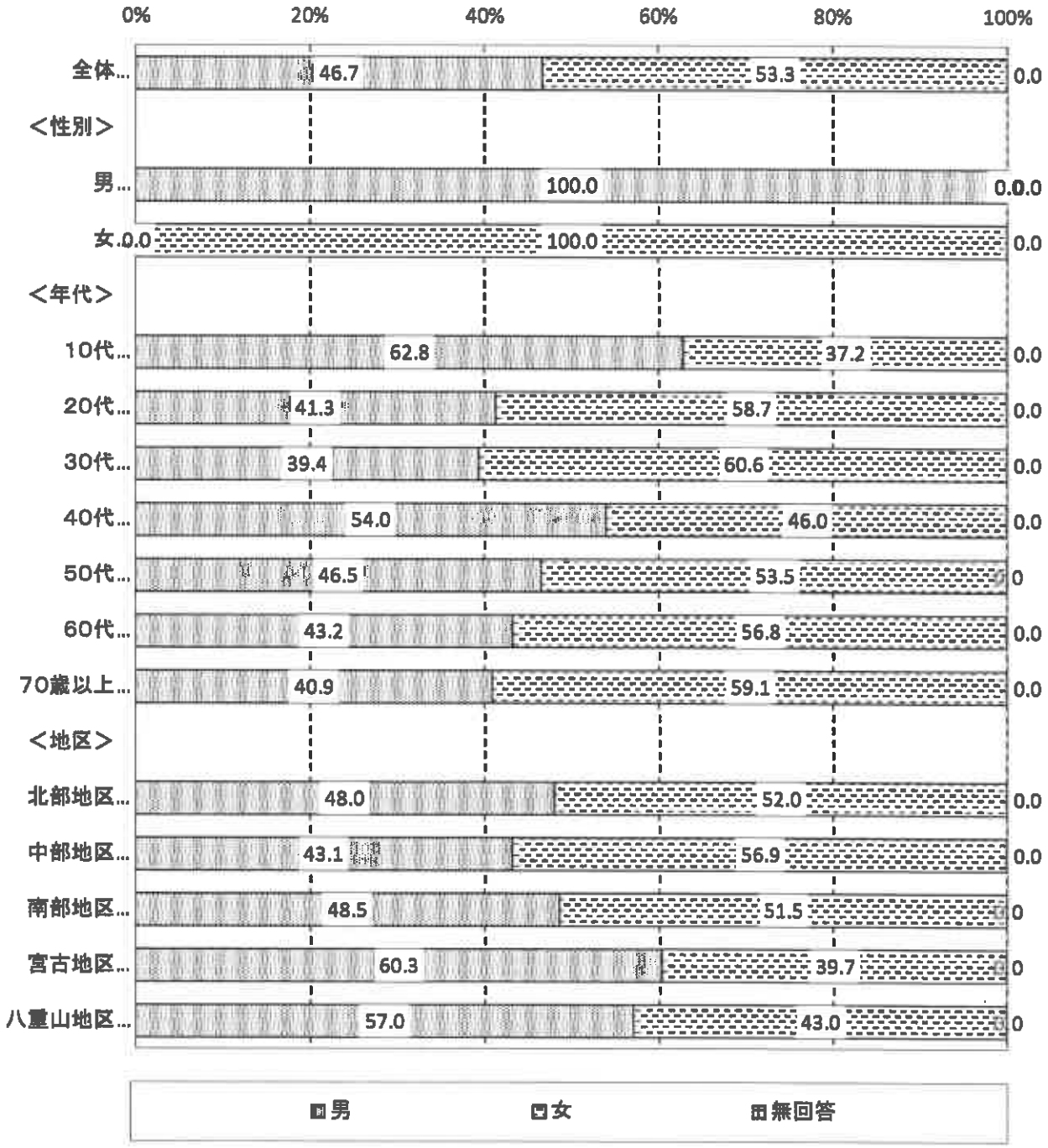
地区別では、地区ごとに回答に差が見られ、特に南部地区、宮古地区で「親しみ」や「理解度」、「使用頻度」などの項目が他地区に比べて低い傾向にあり、地区ごとで異なるテーマでの啓発、南部地区、宮古地区の普及が必要だといえる。

第３章　調査結果

１．調査対象者の属性

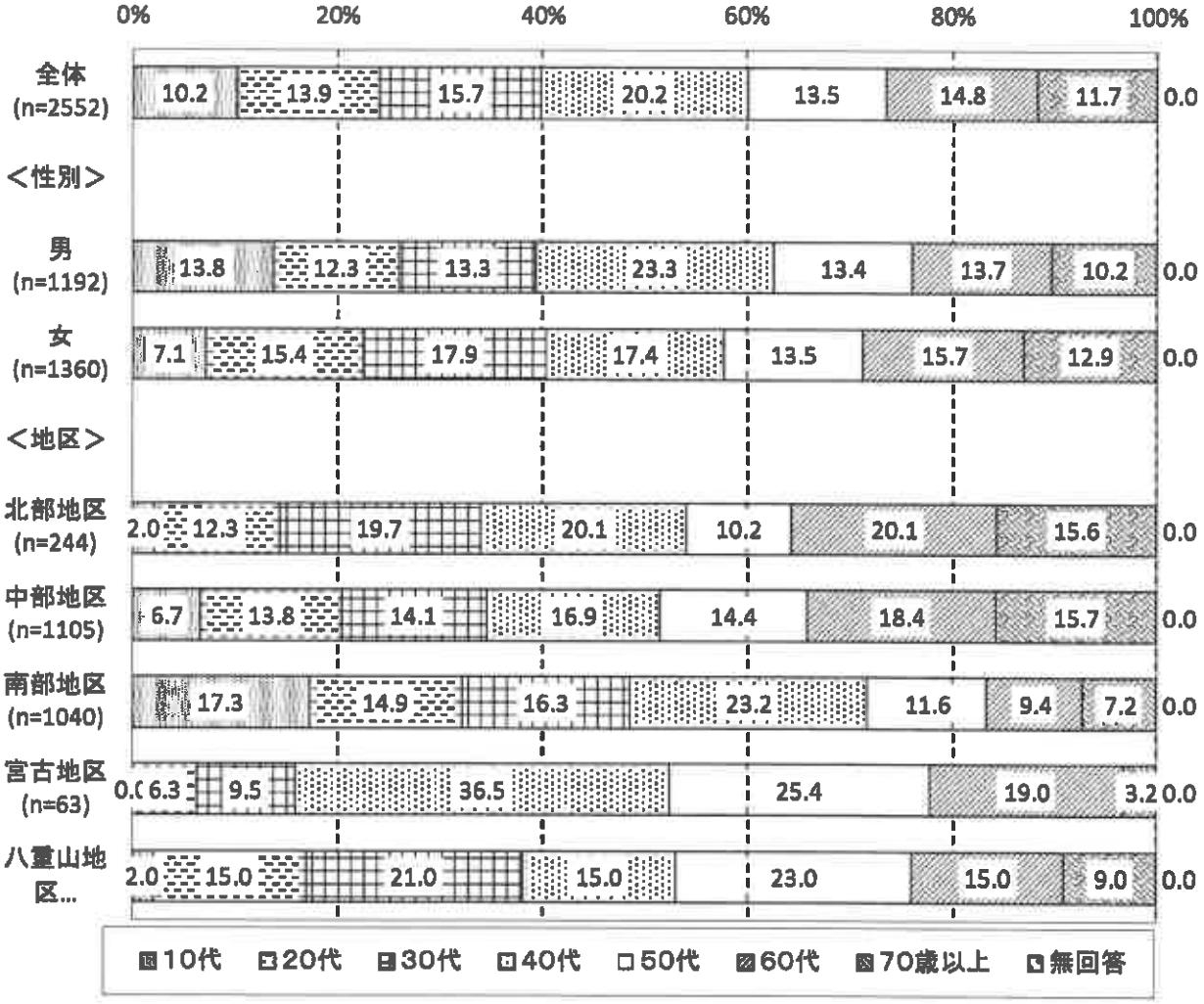
（1）性別

図表２　性別



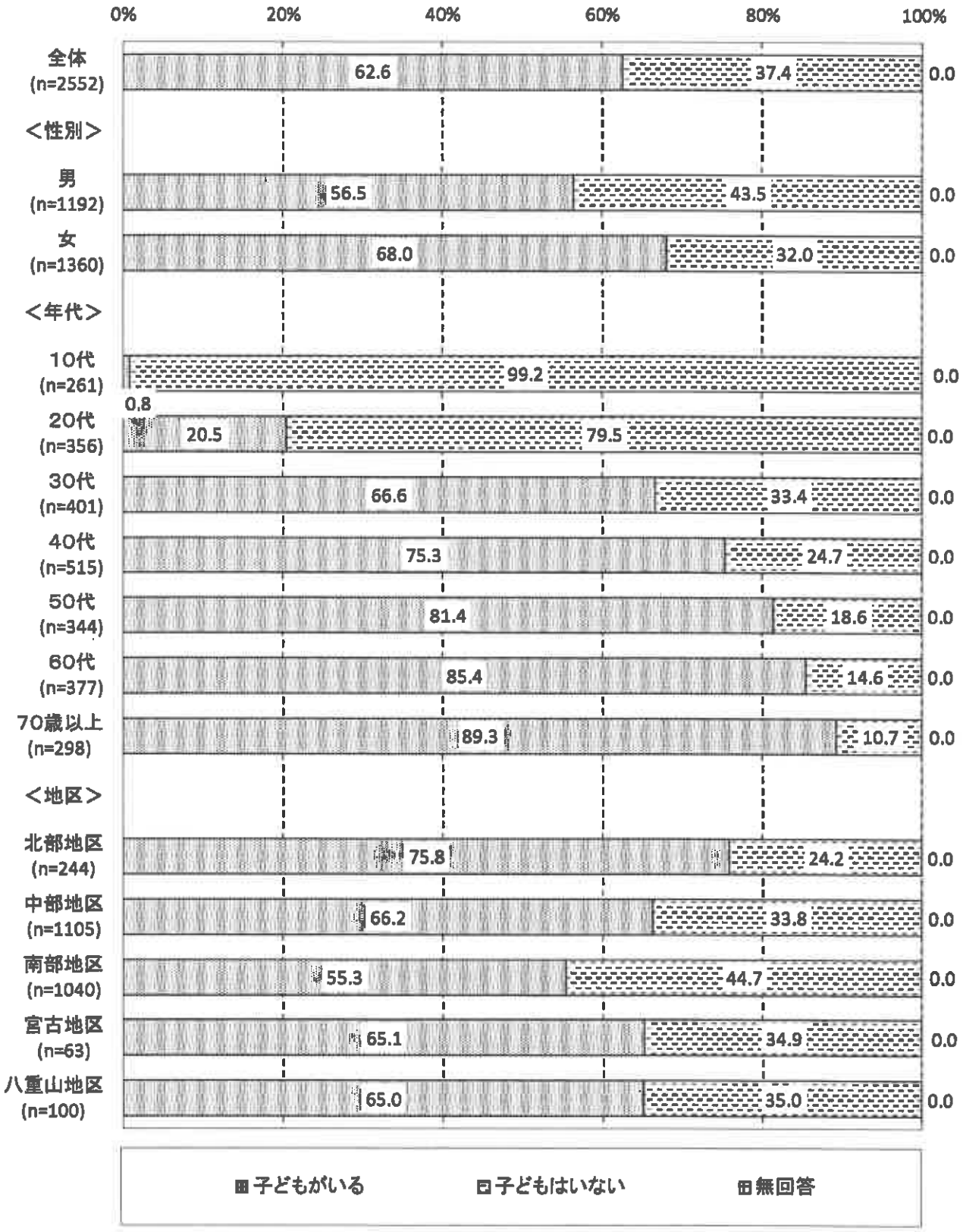
（2） 年代

図表３　年代


0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 (n=2552)
10.2
13.9
15.7
20.2
13.5
14.8
11.7
0.0
＜性別＞
男 (n=1192)
13.8
12.3
13.3
23.3
13.4
13.7
10.2
0.0
女 (n=1360)
7.1
15.4
17.9
17.4
13.5
15.7
12.9
0.0
＜地区＞
北部地区 (n=244)
2.0
12.3
19.7
20.1
10.2
20.1
15.6
0.0
中部地区 (n=1105)
6.7
13.8
14.1
16.9
14.4
18.4
15.7
0.0
南部地区 (n=1040)
17.3
14.9
16.3
23.2
11.6
9.4
7.2
0.0
宮古地区 (n=63)
6.3
9.5
36.5
25.4
19.0
3.2
0.0
八重山地区…
2.0
15.0
21.0
15.0
23.0
15.0
9.0
0.0
10代
20代
30代
40代
50代
60代
70歳以上
無回答

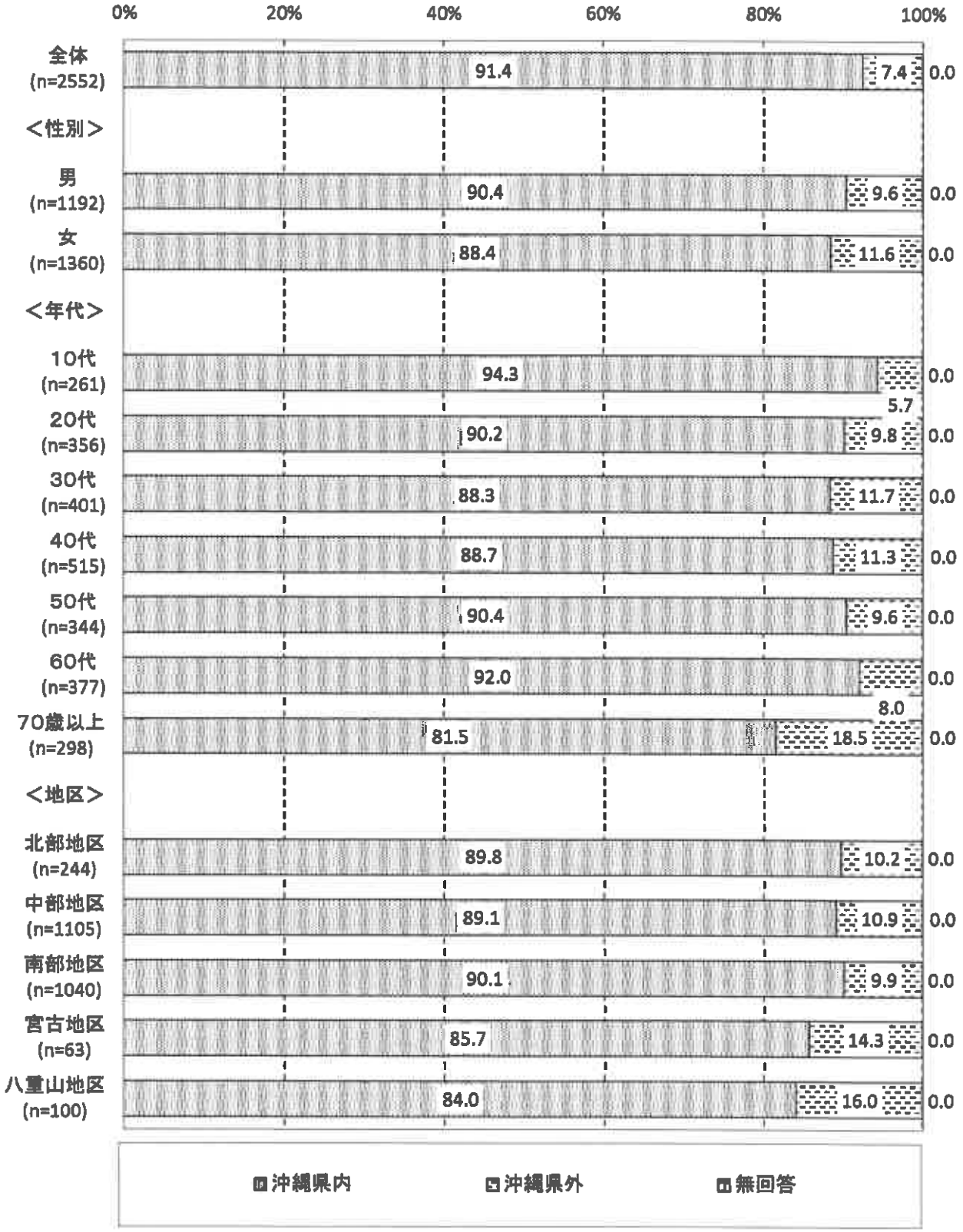
（3）子どもの有無

図表４　子どもの有無



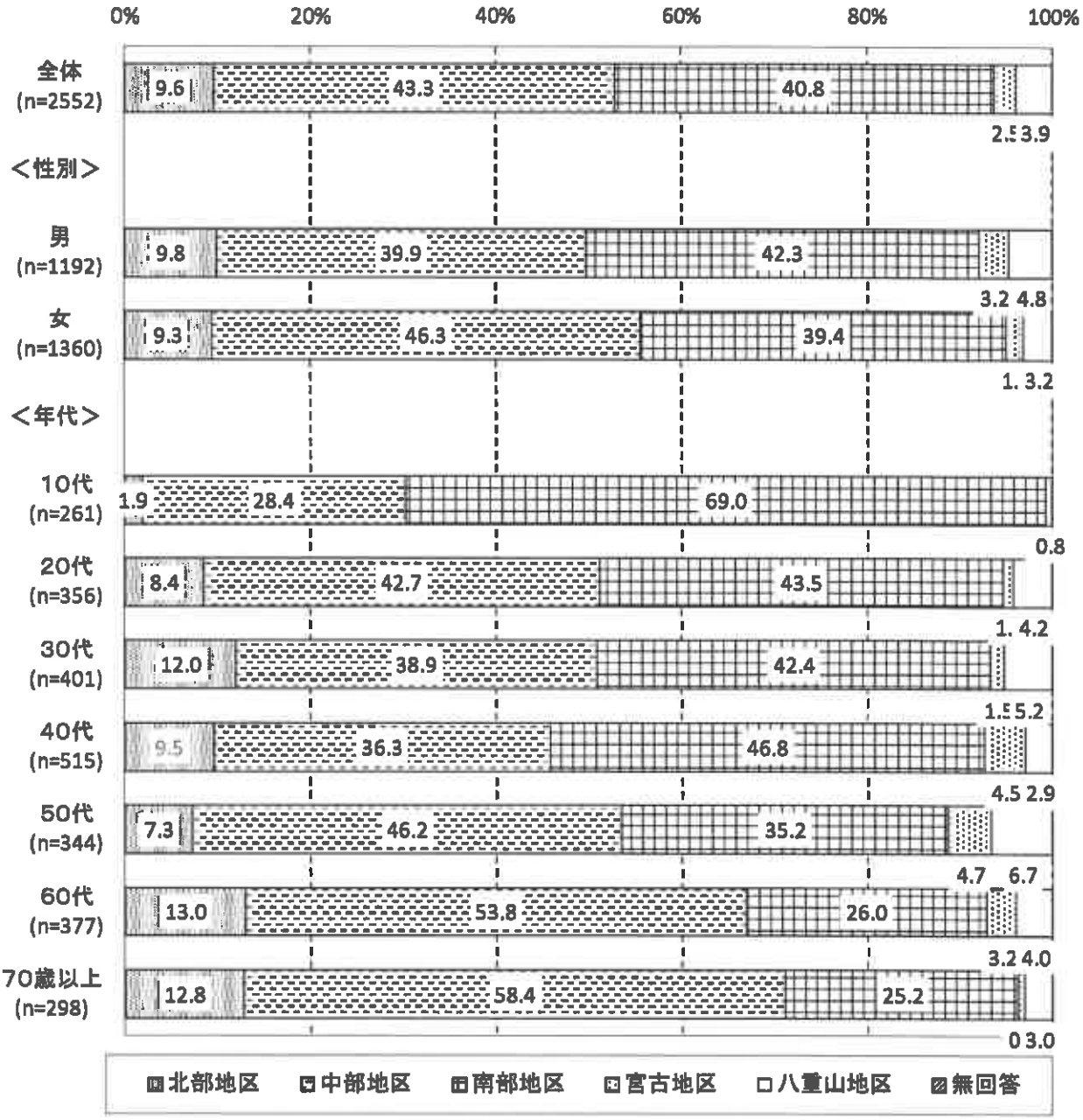
（4）出生地

図表５　出生地


0%
20%
40%
60%
80%
100%
全体 (n=2552) 91.4 7.4 0.0
＜性別＞
男 (n=1192) 90.4 9.6 0.0
女 (n=1360) 88.4 11.6 0.0
＜年代＞
10代 (n=261) 94.3 5.7 0.0
20代 (n=356) 90.2 9.8 0.0
30代 (n=401) 88.3 11.7 0.0
40代 (n=515) 88.7 11.3 0.0
50代 (n=344) 90.4 9.6 0.0
60代 (n=377) 92.0 8.0 0.0
70歳以上 (n=298) 81.5 18.5 0.0
＜地区＞
北部地区 (n=244) 89.8 10.2 0.0
中部地区 (n=1105) 89.1 10.9 0.0
南部地区 (n=1040) 90.1 9.9 0.0
宮古地区 (n=63) 85.7 14.3 0.0
八重山地区 (n=100) 84.0 16.0 0.0
沖縄県内
沖縄県外
無回答

（5）居住地区

図表６　居住地区



２．「しまくとぅば」に対する親しみ

「しまくとぅば」に対する親しみでは、41.2%が「親しみを持っている」と回答。37.9%の「どちらかといえば親しみを持っている」を加えると 79.1%の県民が親しみを持っていると回答。

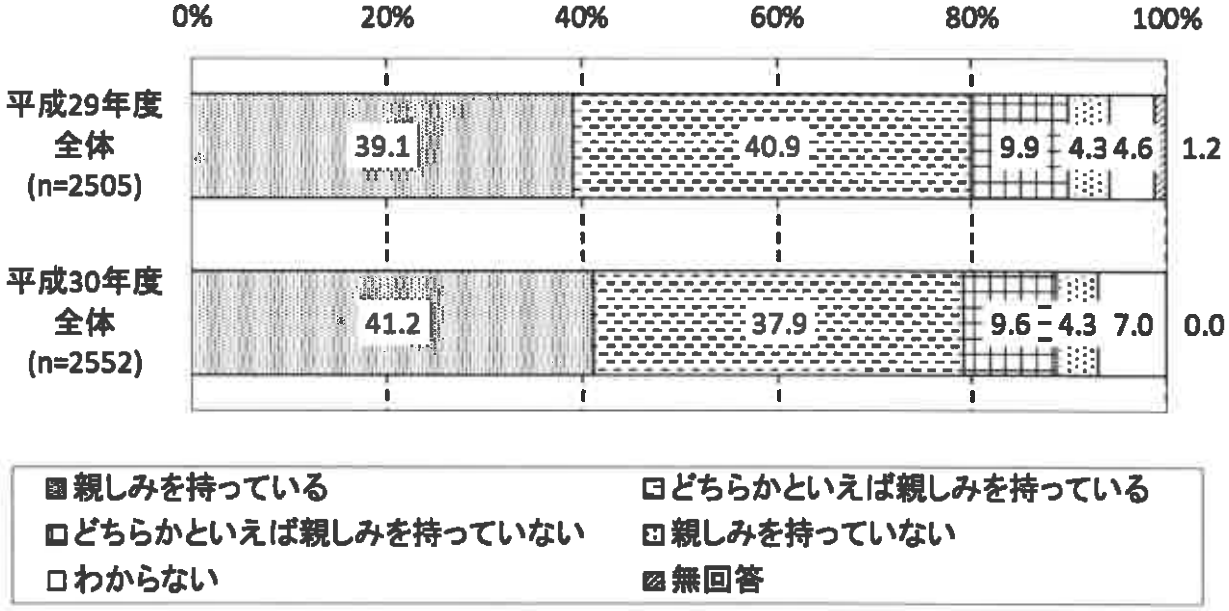
平成 29 年度の調査では「親しみを持っている」と「どちらかといえば親しみを持っている」の合算が 80.0%であり、本年度は減少傾向となっている。

性別で見た場合では、「親しみを持っている」と「どちらかというと親しみを持っている」の合算値は、男性が 77.0%、女性が 80.9%で、女性の方が 3.9%高い。

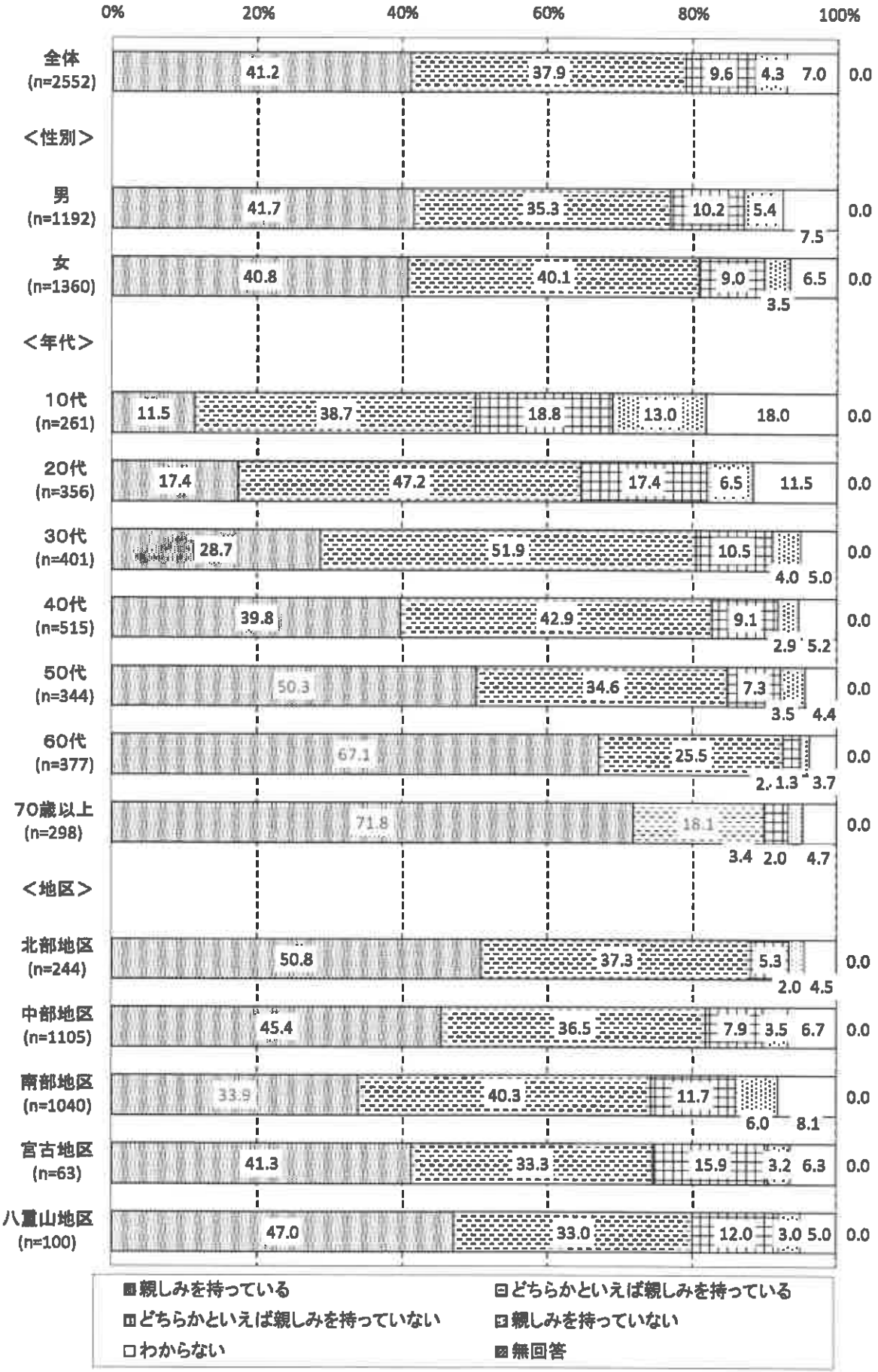
年代別で見ると、10 代の 50.2%から年代が高くなるにつれ県民の親しみが高くなる傾向となっている。60 代が最も高く、92.6%となっている。

地区別で見ると、「親しみを持っている」、「どちらかというと親しみを持っている」の合算は、北部地区が 88.1%と最も高く、南部地区、宮古地区が低い割合となっている。

図表７　「しまくとぅば」に対する親しみ（前回比較）

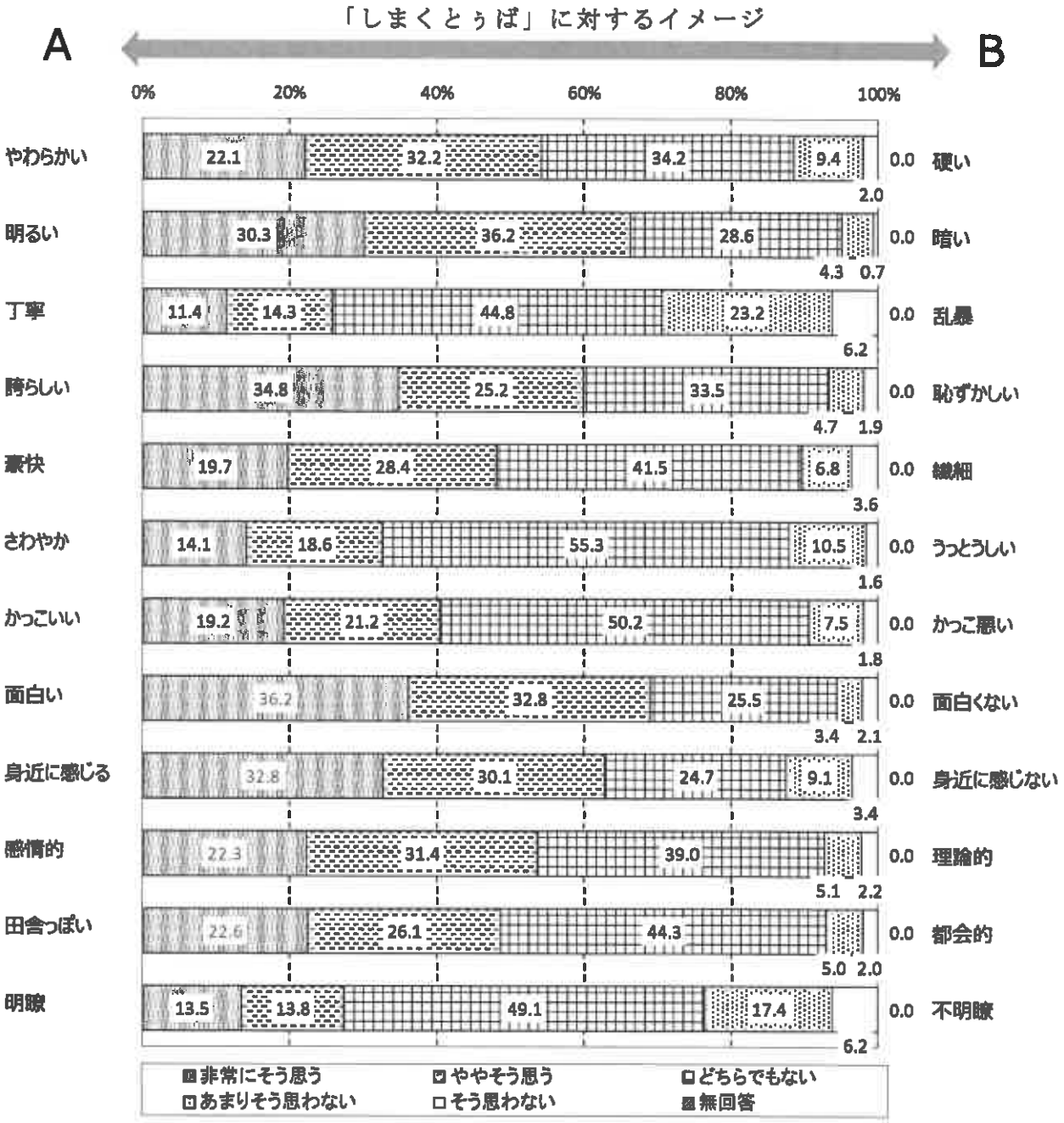


図表８　「しまくとぅば」に対する親しみ



３．「しまくとぅば」に対するイメージ

「しまくとぅば」に対するイメージを確認するため、１２のイメージについて、ふたつの相反するＡとＢの表現を提示し、どちらに近いかを尋ねた。（基本的にＡを肯定的な表現、Ｂを否定的な表現としている。）肯定的な回答が多いのは「面白い」（69.0%）、「明るい」（66.5%）、「身近に感じる」（62.9%）などである。逆に肯定意見が少ないのは「丁寧」（25.7%）、「明瞭」（27.3%）、「さわやか」（32.7%）である。



４．「しまくとぅば」に対する理解度

「しまくとぅば」に対する理解度では、「よくわかる」が 15.5%、「ある程度わかる」が 47.3%となり、合算すると一定程度理解できる県民の割合は 62.8%となる。

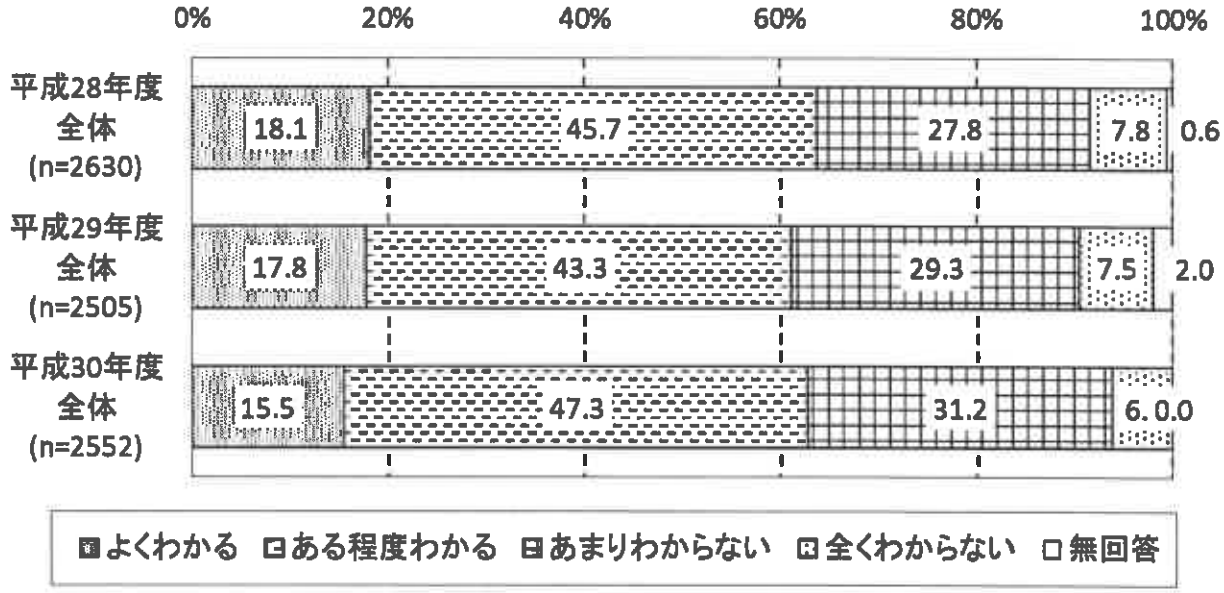
平成 28 年度の調査では、「よくわかる」が 18.1%、「ある程度わかる」が 45.7%で、合算すると 63.8%、平成 29 年度の調査では、「よくわかる」が 17.8%、「ある程度わかる」が 43.3%で、合算すると 61.1%となっており、前年比では増加傾向にある。

性別では、「よくわかる」「ある程度わかる」の合計が、男性では 64.2%、女性は 61.5%で、男性が女性を 2.7%上回っている。

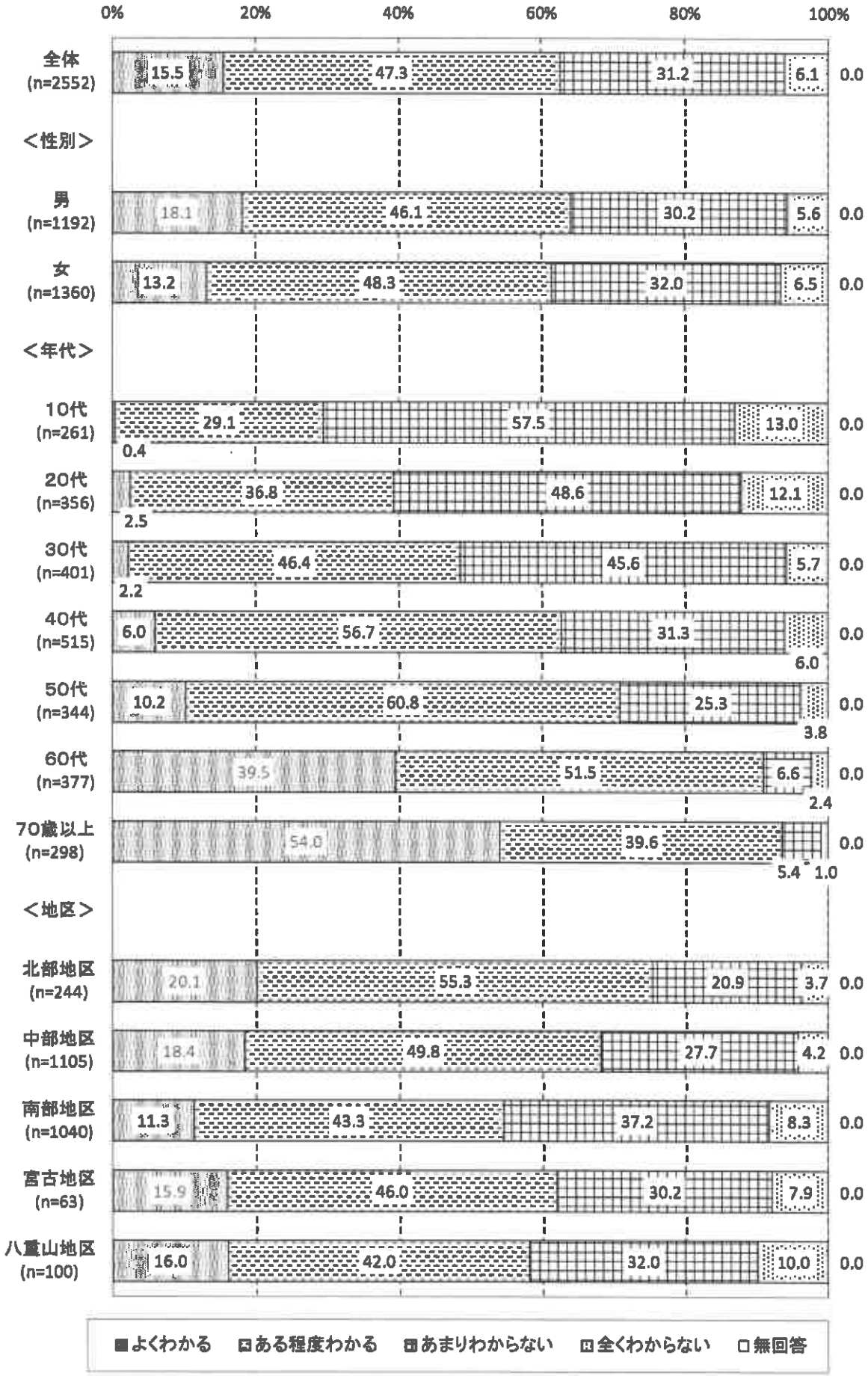
年代別では、「よくわかる」と「ある程度わかる」の合計が 10 代の 29.5%から年代が高くなるにつれ県民の「しまくとぅば」に対する理解度が高くなっている。 70 歳代以上では 93.6%となる。

地区別では、北部地区において「よくわかる」と「ある程度わかる」の合計が他の地区と比べて高く、南部地区は他地区と比べ低くなっている。

図表９　「しまくとぅば」に対する理解度（前回比較）



「しまくとぅば」に対する理解度

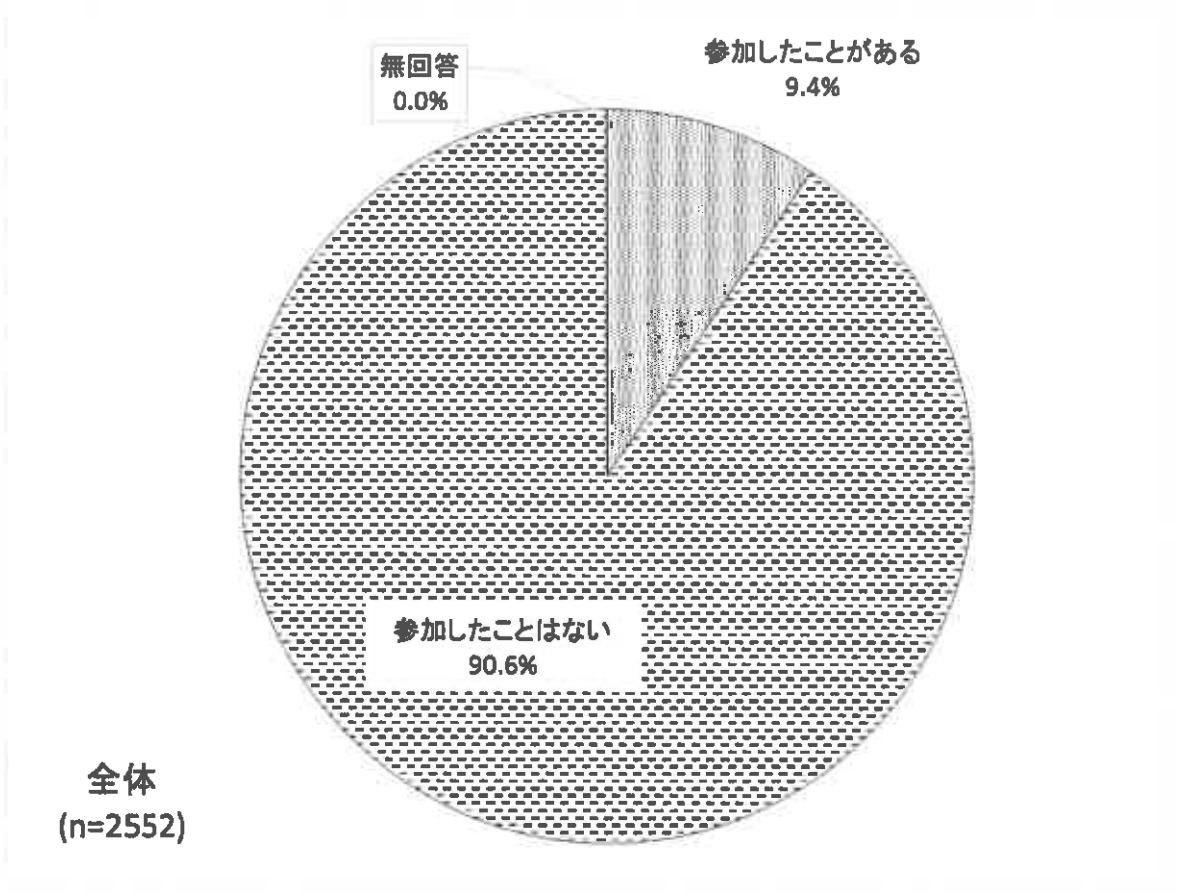


５．「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況

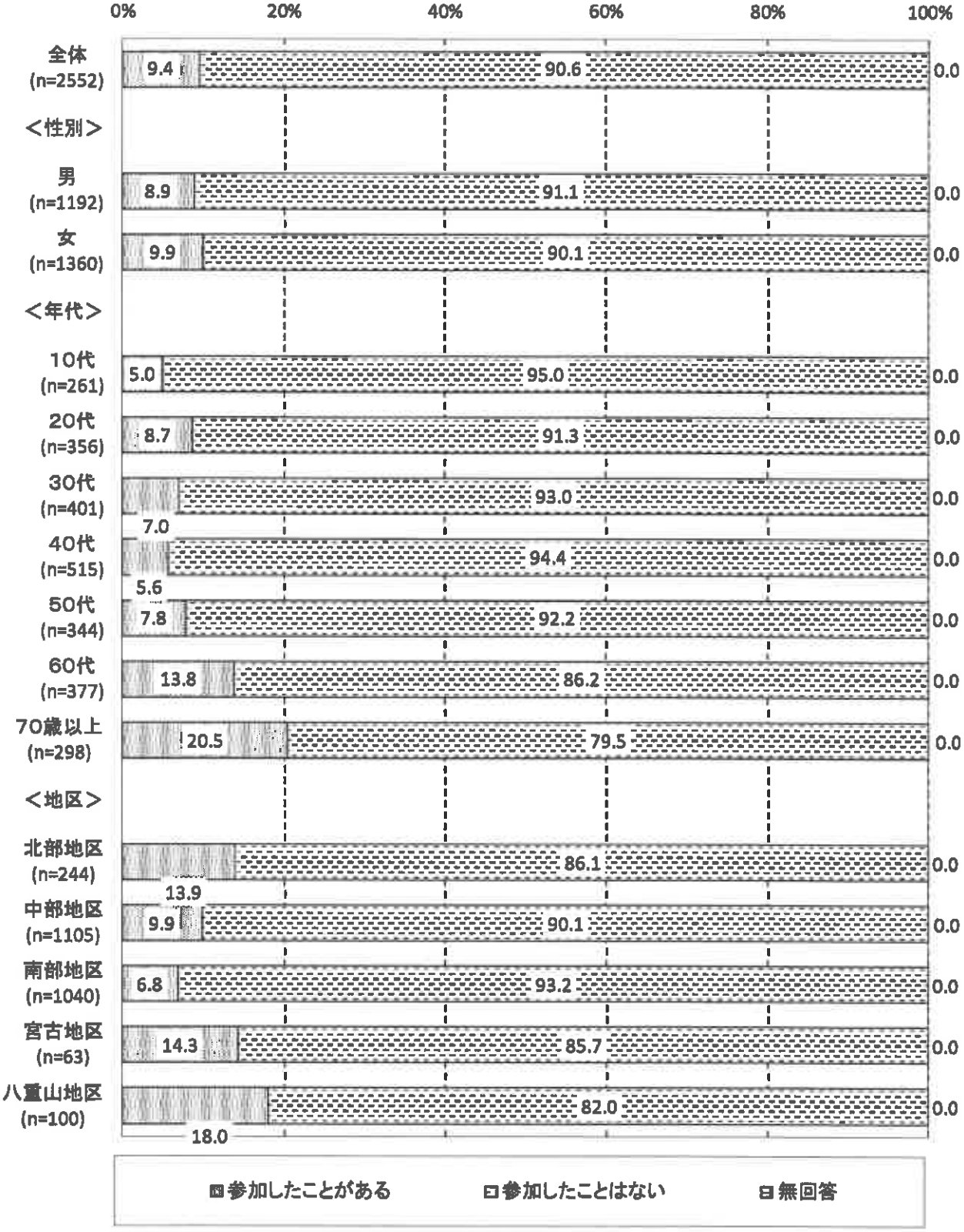
県民の「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況は全体で「参加したことがある」が 9.4%となる。「参加したことはない」が 90.6%で圧倒的に参加経験の無い県民が多い。

平成 29 年度調査の「参加したことがある」10.5%から減少している。

図表１０　「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況（全体結果）



図表１１　「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関連イベントの参加状況



６．「しまくとぅば」の使用頻度

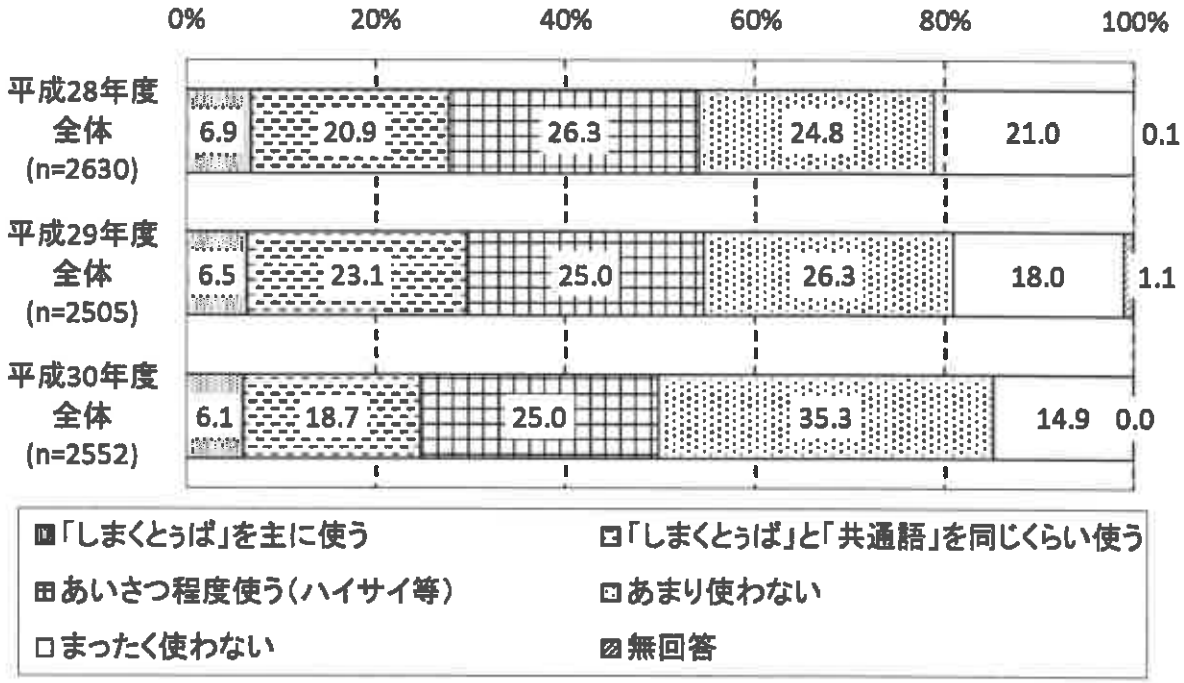
「しまくとぅば」の使用頻度については、「「しまくとぅば」を主に使う」が 6.1%、「「しまくとぅば」と「共通語」を同じくらい使う」が 18.7%、「挨拶程度使う」が 25.0%で、「しまくとぅばを挨拶程度以上使う」（“主に使う”“同じくらい使う”“挨拶程度使う”の合算値）割合は、49.8%である。

平成 28 年度の調査では「しまくとぅばを挨拶程度以上使う」割合は 54.1%、29 年度の調査では 54.6%であった。

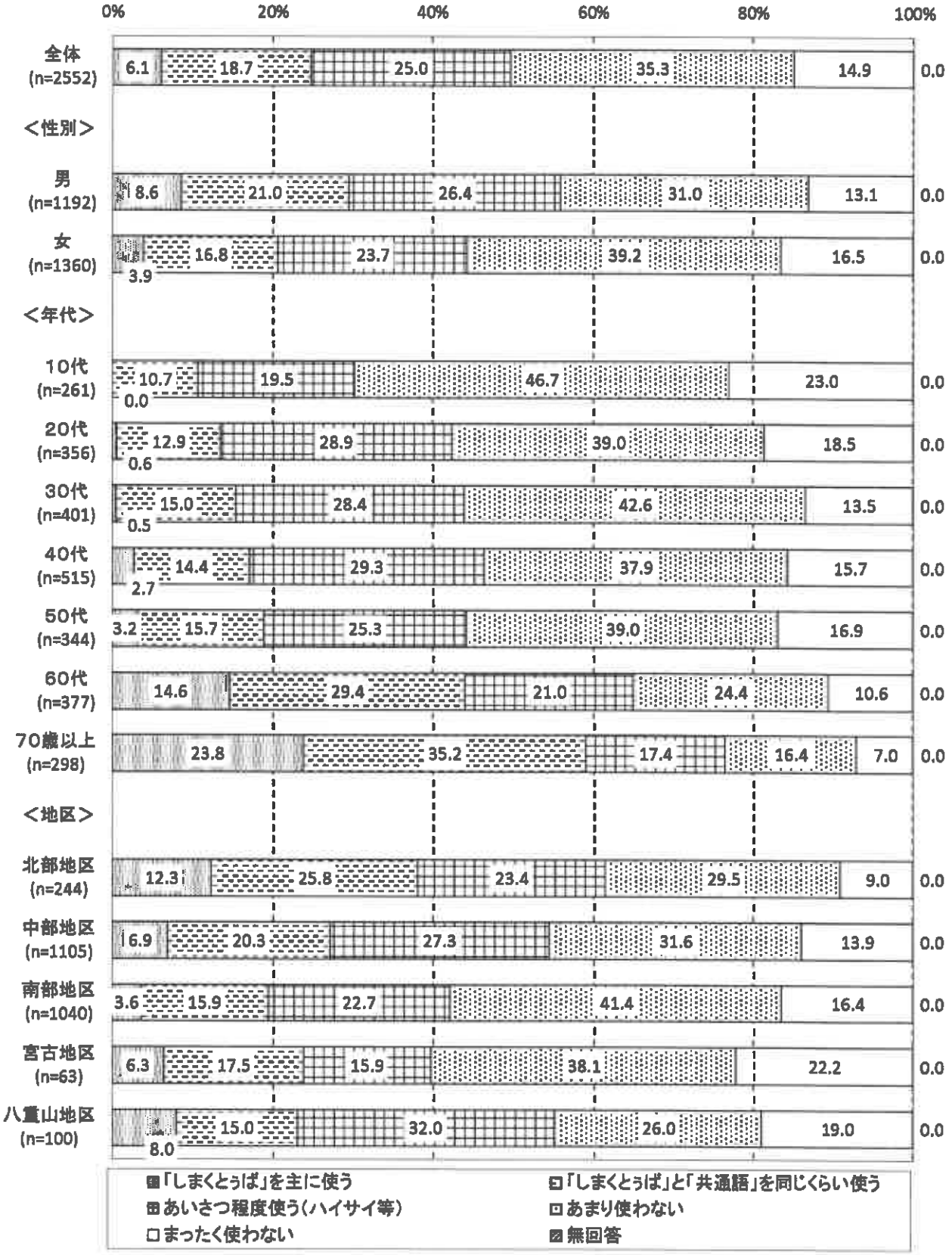
性別では、「しまくとぅばを挨拶程度以上使う」割合は男性が 56.0%、女性では 44.4%で男性のほうが使用している割合が高い。

年代別では、年代が高くなるにつれ使用している割合が高なる傾向にあり、10 代の 30.2%に比べ、60 代では 65.0%、70 歳以上では 76.4%となっている。

図表１２　「しまくとぅば」の使用頻度（前回比較）



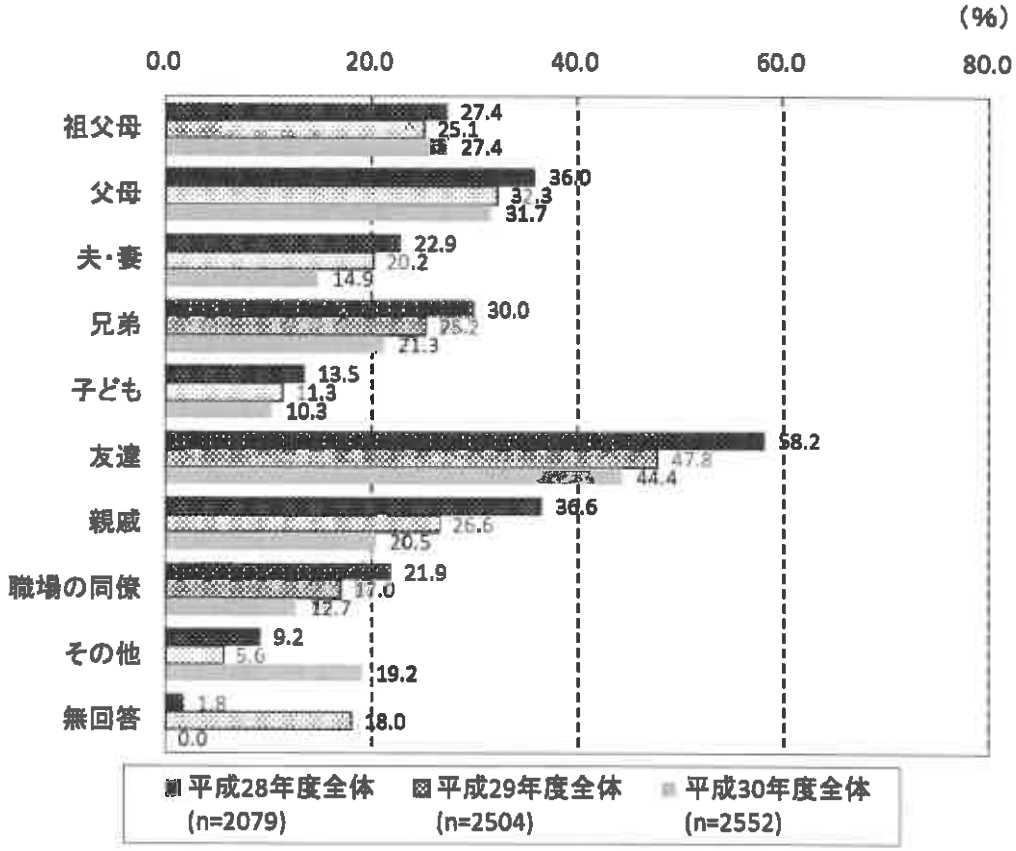
図表１３　「しまくとぅば」の使用頻度



７．「しまくとぅば」を使う相手

「しまくとぅば」を使う相手については、「友達」（44.4%）が最も多く、次いで「父母」（31.7%）、「祖父母」（27.4%）と続く。「友達」、「父母」については過去の調査でも、上位２位以内である。

図表１４　「しまくとぅば」を使う相手（前回比較）



図表１５　「しまくとぅば」を使う相手

単位：%		サンプル数	祖父母	父母	夫・妻	兄弟	子ども	友達	親戚	職場の同僚	その他
全体		2,552	27.4	31.7	14.9	21.3	10.3	44.4	20.5	12.7	19.2
性別	男	1,192	26.7	32.8	15.0	21.7	8.5	54.5	22.8	16.1	15.0
	女	1,360	28.0	30.9	14.7	20.9	12.0	35.6	18.5	9.7	22.8
年代	10代	261	41.4	33.0	1.1	14.9	0.8	47.9	14.9	1.1	14.9
	20代	356	41.0	37.9	6.2	18.0	3.9	42.7	16.9	11.0	20.5
	30代	401	35.4	37.7	18.2	23.4	16.0	46.4	19.2	16.7	14.0
	40代	515	25.0	37.9	13.4	16.9	11.1	39.8	13.4	17.7	22.7
	50代	344	20.3	31.1	16.3	16.6	11.3	37.2	14.8	14.5	20.9
	60代	377	18.0	24.1	18.0	27.6	9.8	44.0	30.8	12.7	19.9
	70歳以上	298	12.1	14.8	29.5	32.9	17.1	57.7	37.2	8.7	19.1
地区	北部地区	244	29.5	30.7	17.2	20.9	13.1	43.4	26.8	17.6	18.4
	中部地区	1,105	27.2	31.0	16.5	22.9	9.0	42.7	21.5	13.2	19.1
	南部地区	1,040	28.3	33.1	12.1	19.2	10.2	45.8	18.1	11.4	18.2
	宮古地区	63	19.0	30.2	9.5	19.0	7.9	44.4	20.6	9.5	30.2
	八重山地区	100	20.0	28.0	23.0	27.0	21.0	52.0	19.0	10.0	25.0

８．ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識

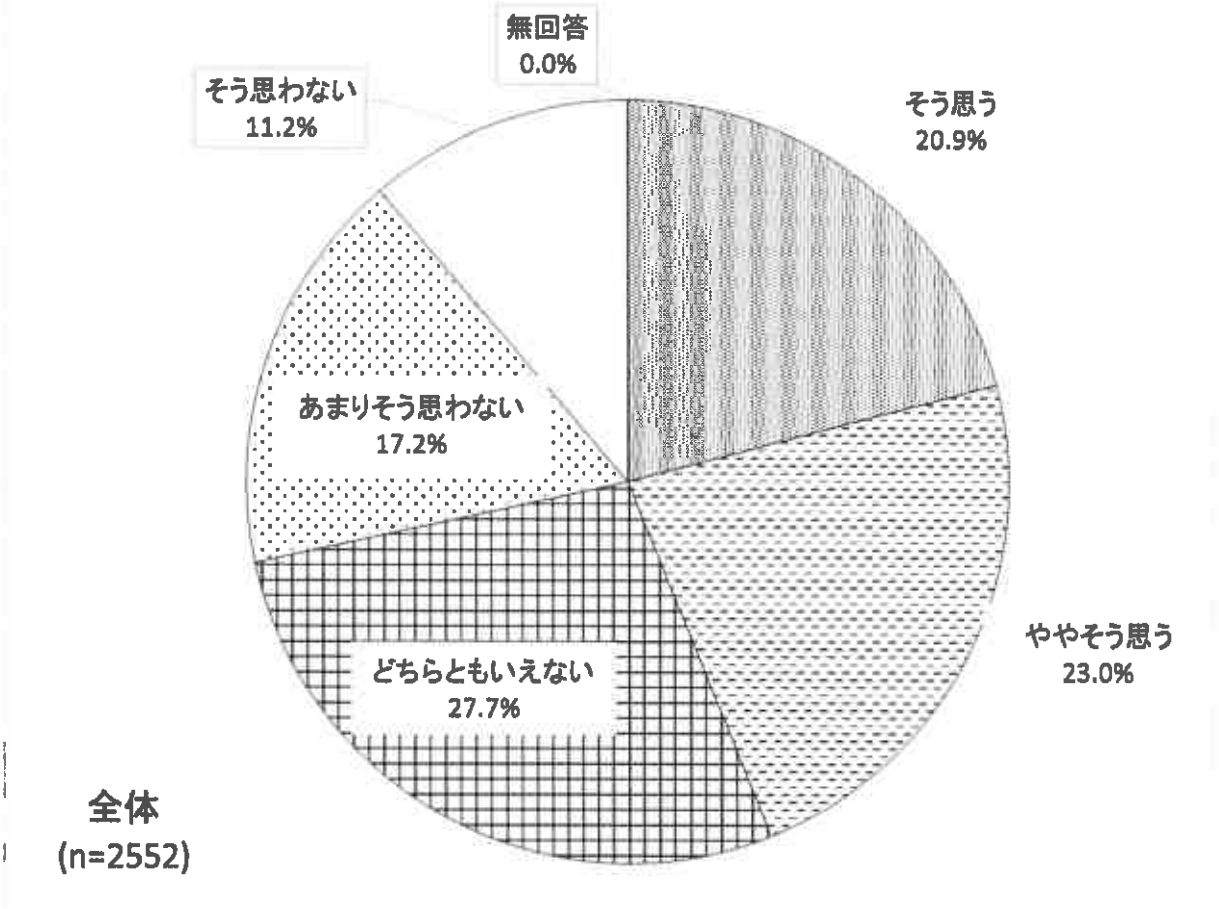
ビジネスや公共の場で「しまくとぅば」を使用してもいいかについて、「そう思う」が 20.9%、「ややそう思う」が 23.0%で、これらを合算した肯定的な意見は 43.9%となる。逆に、「あまりそう思わない」が 17.2%、「そう思わない」が 11.2%で否定的な意見としては、28.4%となっている。

性別でみると、肯定意見では、男性が 44.8%、女性が 43.0%で男性がやや高くなっている。

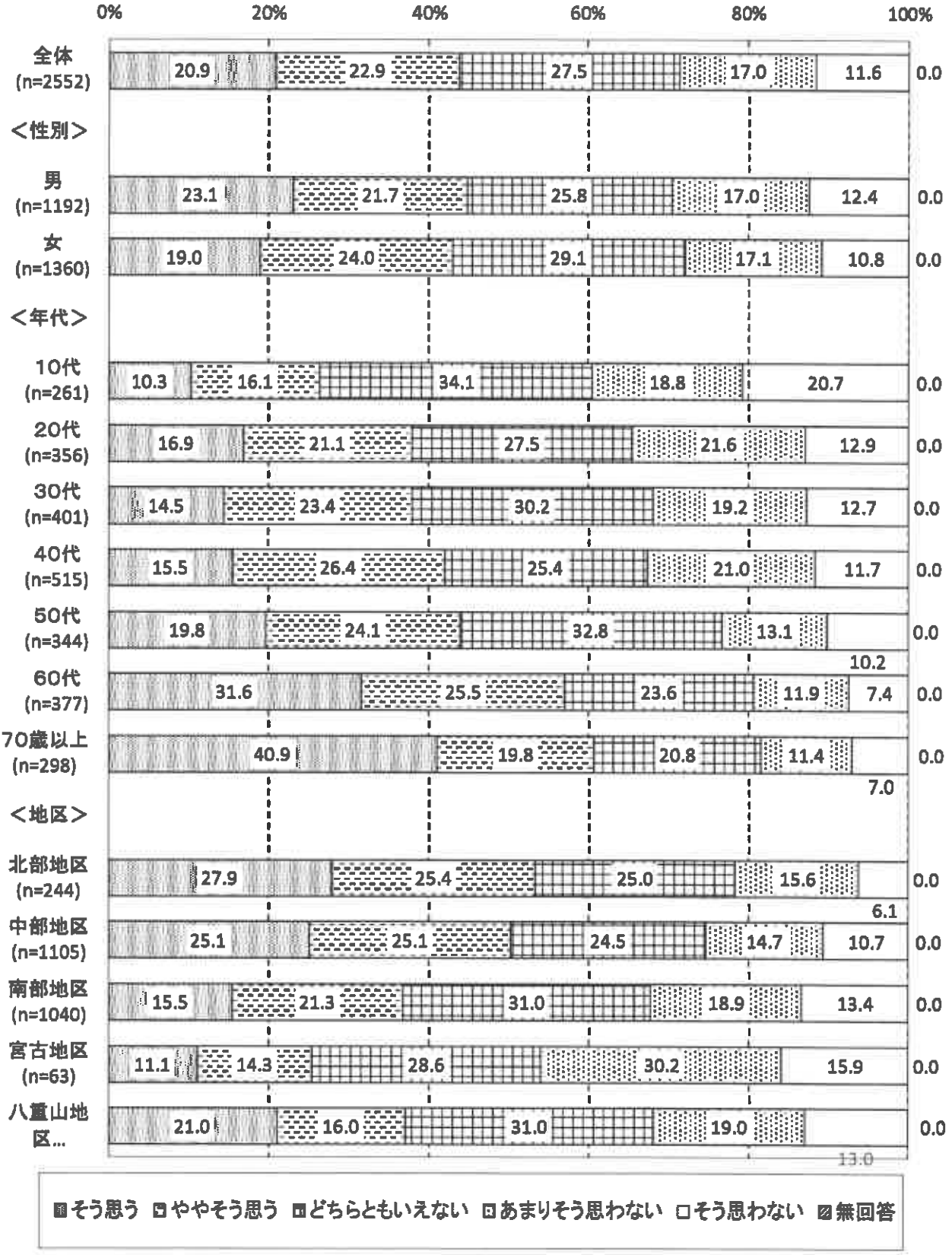
年代で見ると、ビジネスや公共の場で「しまくとぅば」の使用について、年代が高くなるにつれ肯定意見が高くなっている。

地区別で見ると、北部地区が「そう思う」が 27.9%で最も高くなっている。宮古地区では、否定的な意見が 46.1%と高く、肯定的な意見が 25.4%と最も低くなっている。

図表１６　ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識（全体結果）



図表１７　ビジネスや公共の場での「しまくとぅば」の使用に関する意識



９．普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性

普段の生活の中で「しまくとぅば」は必要だと思うかについてみると、全体では「非常にそう思う」が 18.9%、「ある程度必要だと思う」が 59.7%となっており、これらを合わせた必要と思う割合は 78.6%となっている。

平成 29 年度の調査結果では 76.7%の県民が「しまくとぅば」を必要と回答している。前回の調査結果より微増となっており、県民生活において「しまくとぅば」の必要性は依然として高い。

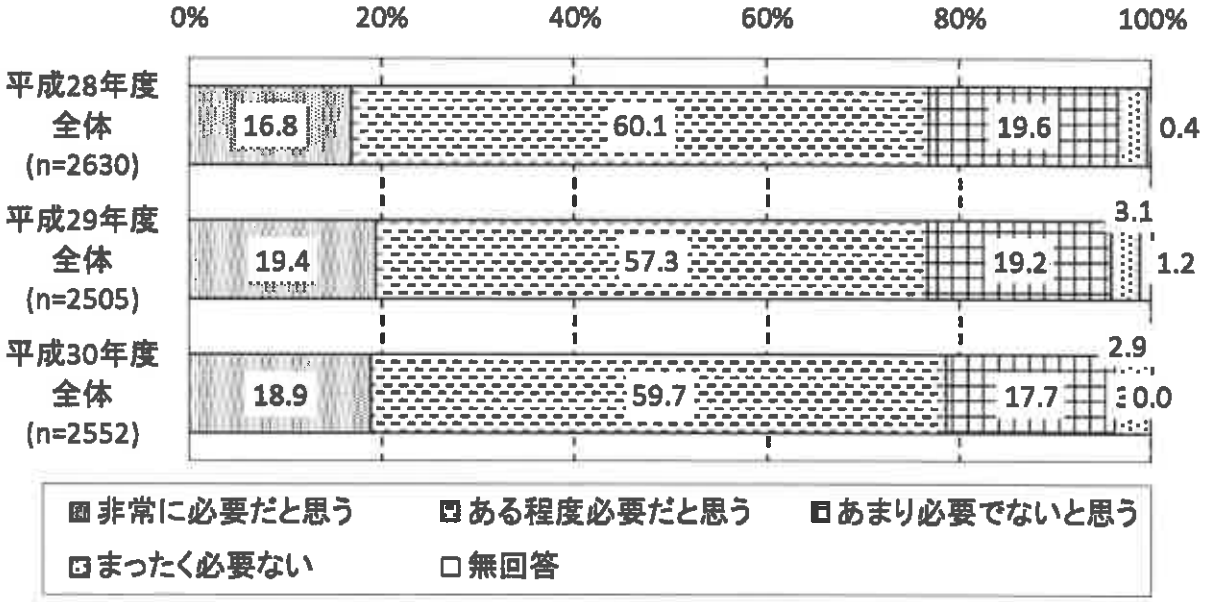
性別でみると、男女とも全体と同様、必要と思う割合は男性が 75.7%、女性が 81.2%と、女性の方が「しまくとぅば」は必要と思う割合は高い傾向となっている。

年代別でみると、10 代～20 代では必要と思う割合が 70.3%以下と全体や 30 代以上に比べて低くなっているものの、30 代以上では 80%を超えており、年代が高くなるにつれ必要と思う割合が高くなる傾向となっている。

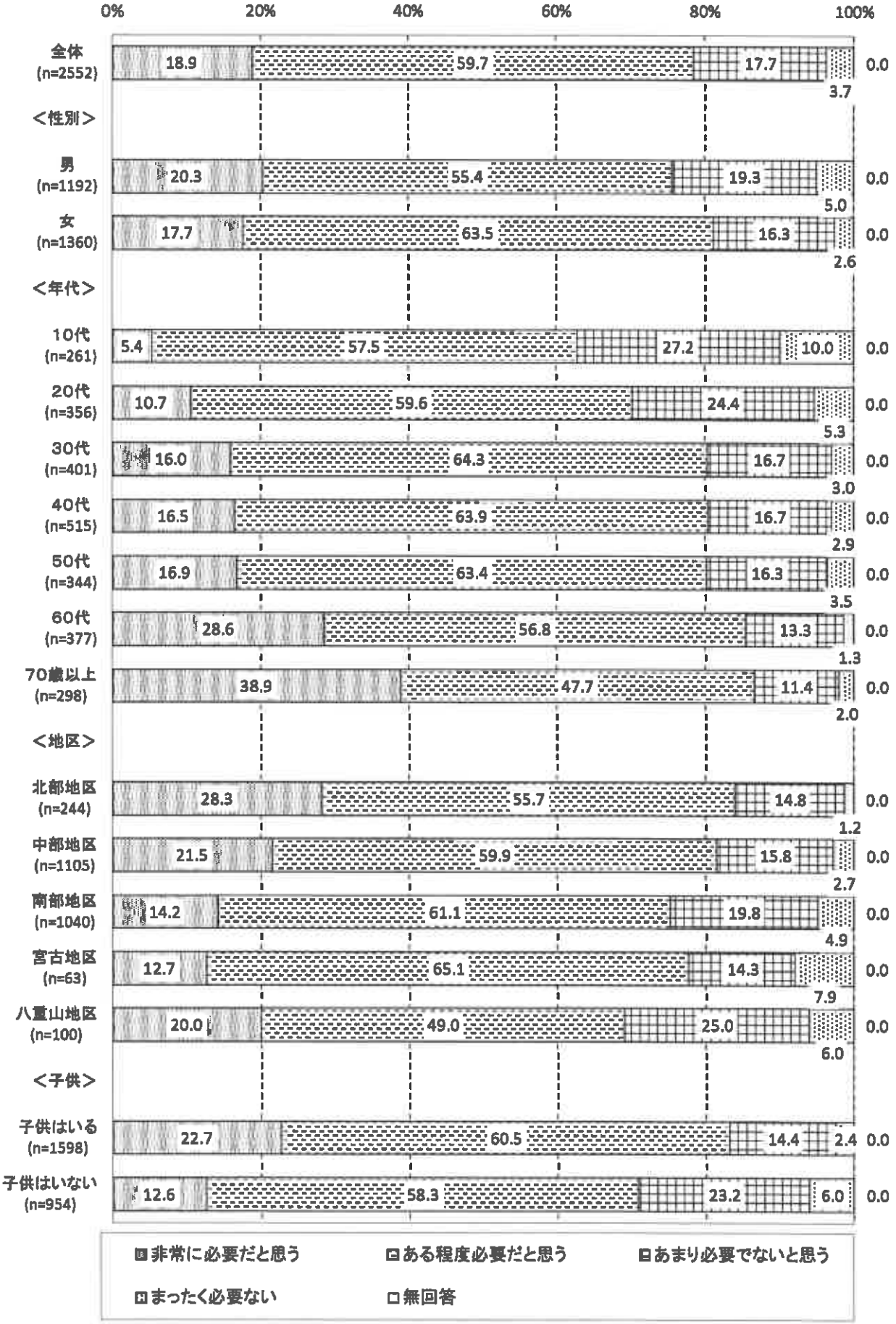
地区別でみると、北部地区では必要と思う割合が 84.0%と全体や中部地区以外の他の地区と比べて高くなっている。

今回の調査では「子どもがいる」の回答が 1598 人おり、親の視点で見た場合、「非常に必要」が 22.7%、「ある程度必要」が 60.5%で「子どもがいない」の回答者より高くなっている。

図表１８　普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性（前回比較）



図表１９　普段の生活の中での「しまくとぅば」の必要性

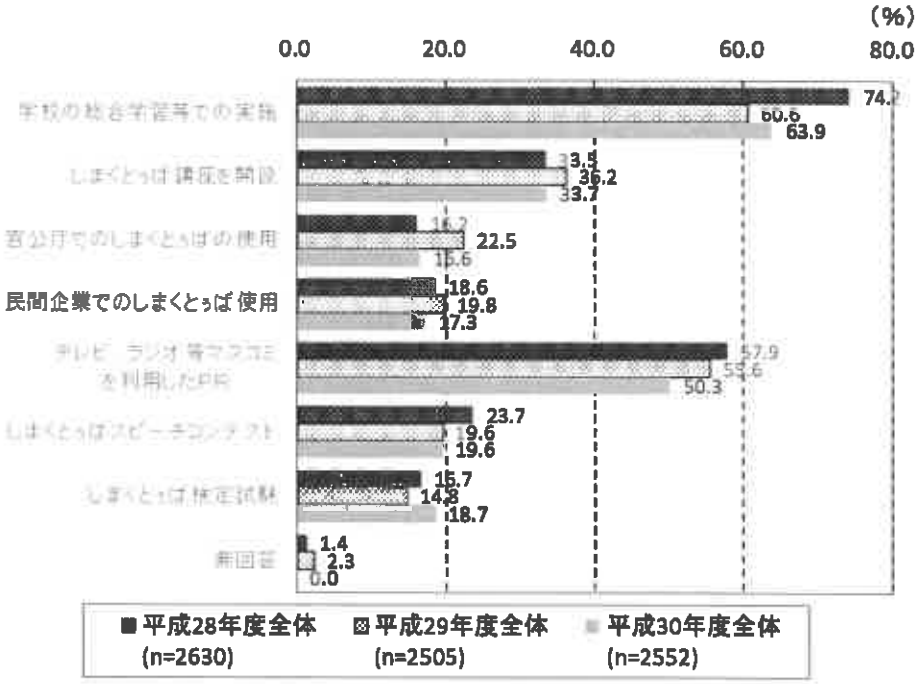


１０．「しまくとぅば」の普及に必要なこと

「しまくとぅば」の普及に必要なことでは、「学校の総合学習等での実施」が 63.9%で最も高く、次いで「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したＰＲ」が 50.3%、「しまくとぅば」講座の開設」で 33.7%となる。

平成 28 年度、29 年度と比較すると、30 年度も同様に「学校の総合学習等での実施」、「テレビ、ラジオ等マスコミを利用したＰＲ」、「「しまくとぅば」講座の開設」の順で高くなっている。

図表２０　「しまくとぅば」の普及に必要なこと（前回比較）



図表２１　「しまくとぅば」の普及に必要なこと

単位：%		サンプル数	学校の総合学習等での実施	しまくとぅば講座を開設	官公庁でのしまくとぅばの使用	民間企業でのしまくとぅば使用	テレビ、ラジオ等マスコミを利用したPR	しまくとぅばスピーチコンテスト	しまくとぅば検定試験
全体		2,552	63.9	33.7	16.6	17.3	50.3	19.6	18.7
性別	男	1,192	59.7	32.7	19.1	21.1	48.1	17.9	18.8
	女	1,360	67.5	34.5	14.4	13.9	52.2	21.2	18.5
年代	10代	261	54.8	21.1	5.0	11.1	38.3	15.3	17.6
	20代	356	59.6	27.5	10.1	13.2	48.9	15.2	21.9
	30代	401	71.1	31.7	17.2	19.7	45.4	17.2	25.9
	40代	515	64.9	34.2	16.9	16.7	50.1	17.3	23.5
	50代	344	66.3	36.9	18.6	18.6	49.4	21.2	17.4
	60代	377	65.3	41.6	22.5	18.6	56.2	24.1	11.4
	70歳以上	298	61.1	39.9	23.5	22.1	62.8	28.5	8.1
地区	北部地区	244	63.5	32.0	18.0	18.9	49.6	23.4	19.3
	中部地区	1,105	65.1	35.9	17.5	17.4	54.5	22.0	17.8
	南部地区	1,040	63.1	31.0	16.0	17.8	47.0	15.5	20.2
	宮古地区	63	54.0	36.5	12.7	7.9	41.3	23.8	19.0
	八重山地区	100	66.0	39.0	13.0	13.0	45.0	25.0	10.0

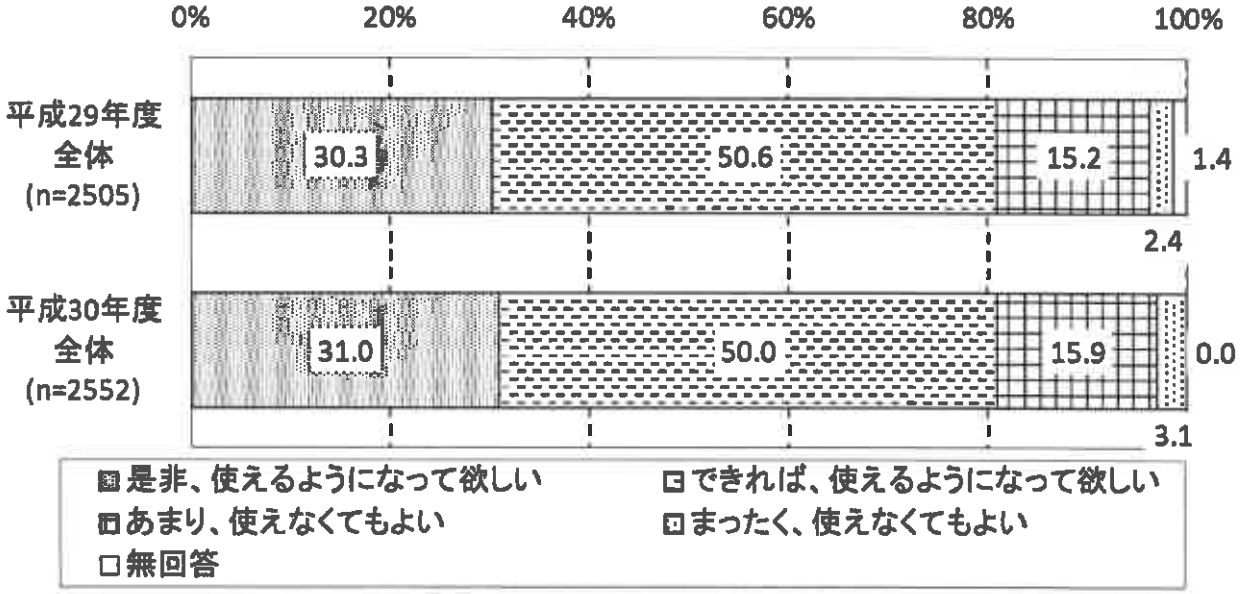
１１．子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識

子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになって欲しいかの質問では、「是非、使えるようになって欲しい」が 31.0%、「できれば、使えるようになって欲しい」が 50.0%で合算すると 81.0%が肯定的である。

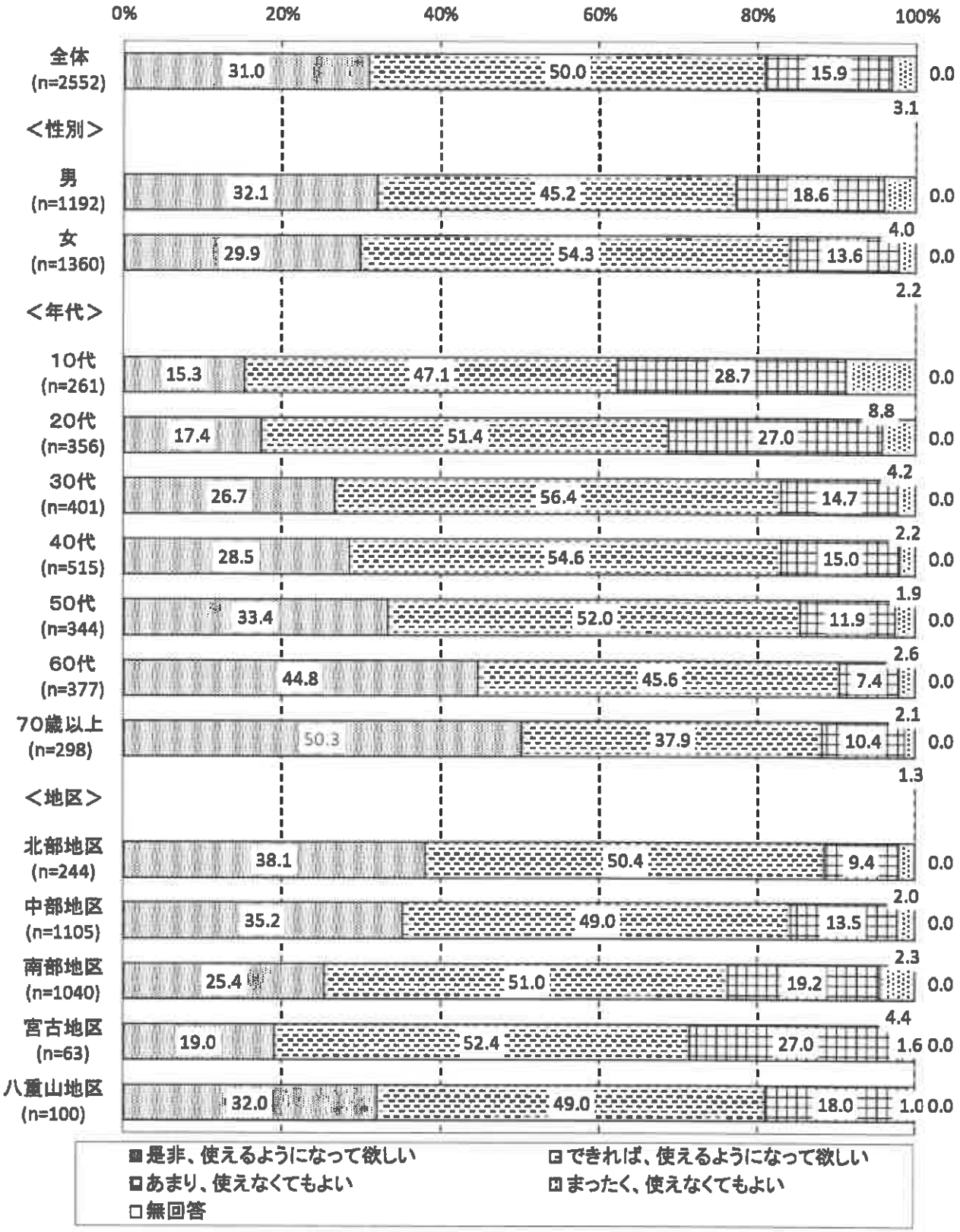
年代別では、年代が高くなるにつれ、肯定的である。

地区別に見ると、「是非、使えるようになって欲しい」と「できれば、使えるようになって欲しい」の合算が北部地区では 88.5%で他地区より高くなっており、南部地区、宮古地区は他地区より低い割合となっている。

図表２２　子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識（前回比較）

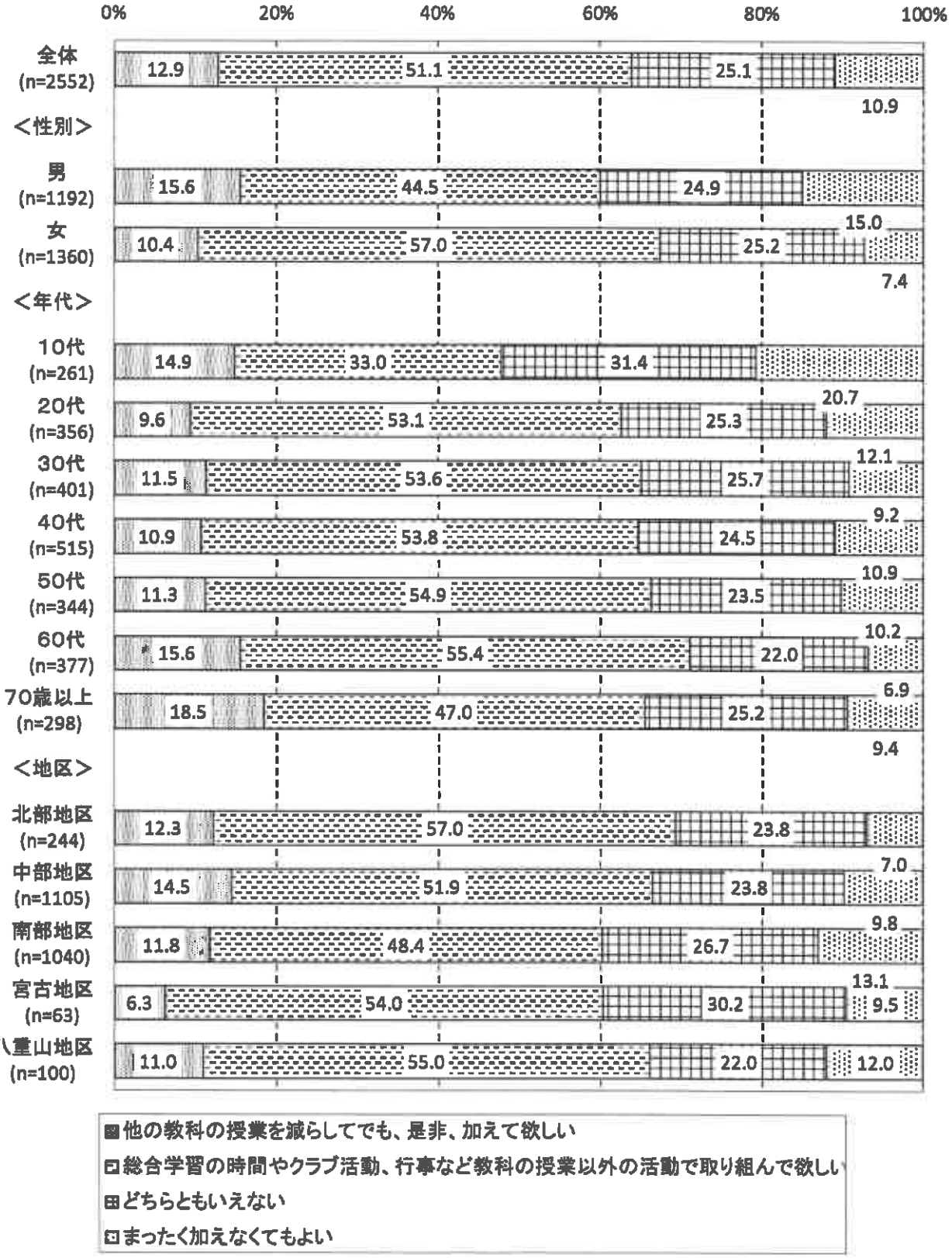


図表２３　子どもたちが「しまくとぅば」を使えるようになることへの意識



１２．学校の授業科目に「しまくとぅば」を加えること

「しまくとぅば」を学校の授業科目に加える事については「行事や日常の挨拶等、授業以外での活動で取り組んで欲しい」が 51.1％で最も高い。次に「どちらともいえない」25.1％、「他の教科の授業を減らしてでも、是非加えて欲しい」が 12.9％と続く。



１３．家庭内での「しまくとぅば」への取り組み状況

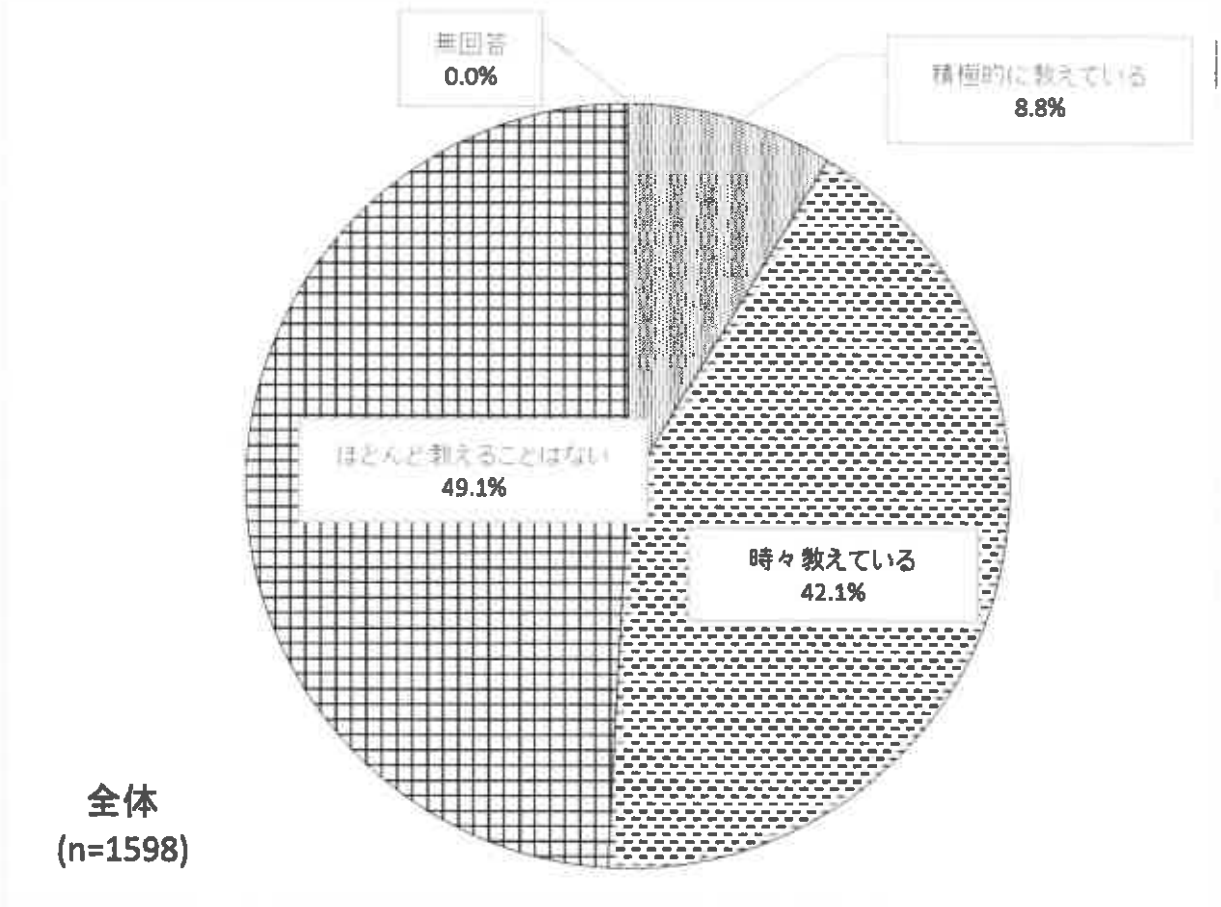
「子どもがいる」と回答した 1,598 人に対して、家庭内で子どもに対する「しまくとぅば」への取り組み状況をたずねたところ、全体では「積極的に教えている」が 8.8%、「時々教えている」が 42.1%、「ほとんど教えることはない」が 49.1%となっており、「しまくとぅば」を教えている割合の方が教えていない割合よりも高くなっている。

性別でみると、女性の方が男性よりも若干高くなっている。

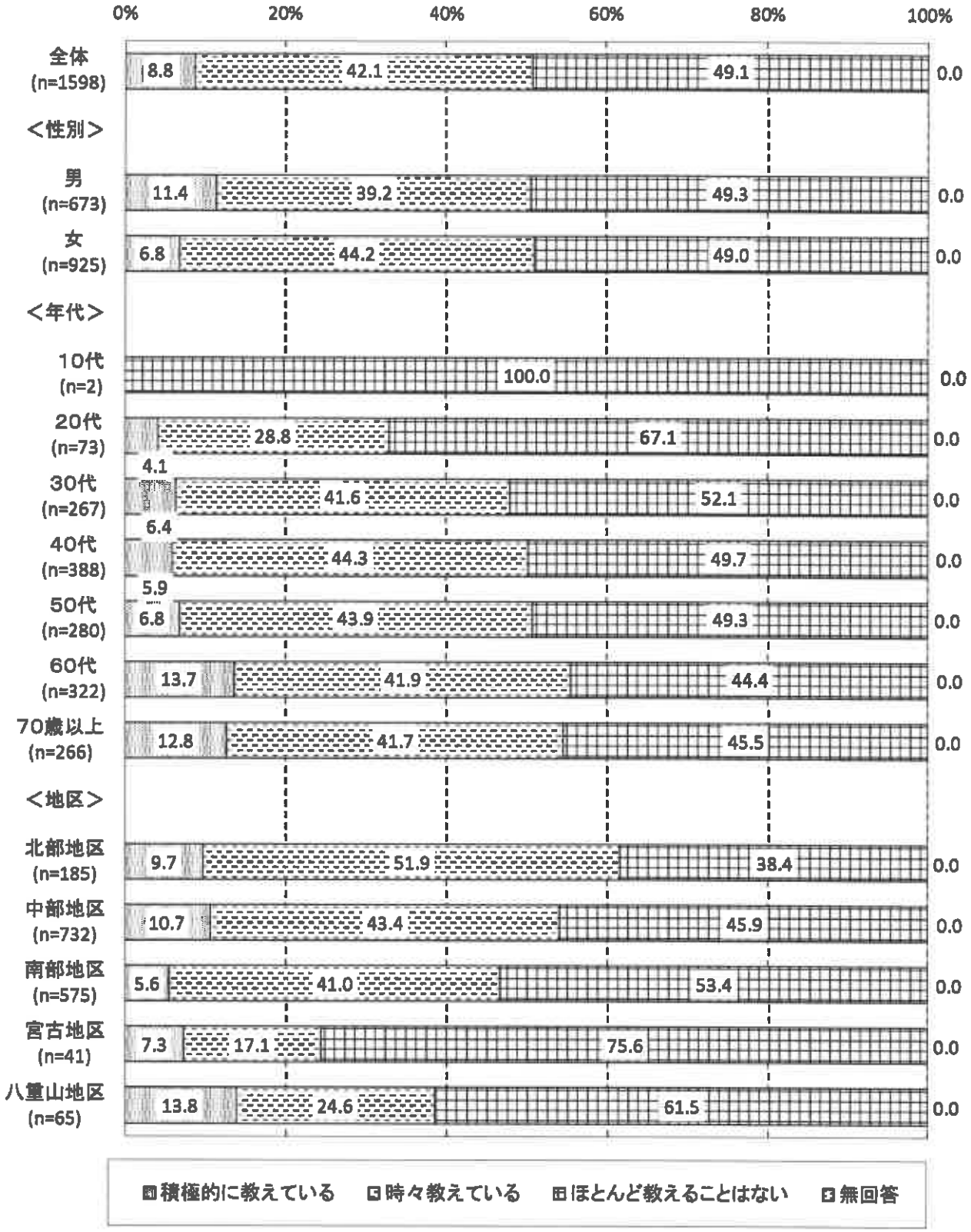
年代別でみると、年代が高くなるにつれ教えている割合が高くなる傾向にある。

地区別でみると、宮古地区で「しまくとぅば」を教えている割合が他の地区と比べて低くなっている。

図表２４　家庭内での「しまくとぅば」への取り組み実施状況（全体結果）



図表２５　家庭内での「しまくとぅば」教育の実施状況



参考資料　調査に使用した調査票

【一般県民調査用調査票】

市町村名：

「しまくとぅば」県民意識調査

問１　あなたの性別は？

１．男　　２．女

問２　あなたの年代は？

１．10代　２．20代　３．30代　４．40代　５．50代　６．60代　７．70歳以上

問３　あなたはお子さんがいますか？

１．子どもがいる　　２．子どもはいない

問４　あなたはどこで生まれましたか？

１．沖縄県内　　２．沖縄県外

問５　あなたは「しまくとぅば」に親しみを持っていますか？

１．親しみを持っている　　２．どちらかといえば親しみを持っている

３．どちらかといえば親しみを持っていない　　４．親しみを持っていない　　５．わからない

問６　あなたは「しまくとぅば」にどのようなイメージを持っていますか？（○はそれぞれ１つ）

	1 非常に	2 やや	3 どちらでもない	4 やや	5 非常に	
（例）「非常にやわらかい」というイメージの場合						
やわらかい	①	2	3	4	5	硬い
やわらかい	1	2	3	4	5	硬い
明るい	1	2	3	4	5	暗い
丁寧	1	2	3	4	5	乱暴
誇らしい	1	2	3	4	5	恥ずかしい
豪快	1	2	3	4	5	繊細
さわやか	1	2	3	4	5	うっとうしい
かっこいい	1	2	3	4	5	かっこ悪い
面白い	1	2	3	4	5	面白くない
身近に感じる	1	2	3	4	5	身近に感じない
感情的	1	2	3	4	5	理論的
田舎っぽい	1	2	3	4	5	都会的
明瞭	1	2	3	4	5	不明瞭

問７　あなたは「しまくとぅば」を聞いて、どの程度わかりますか？

１．よくわかる　　２．ある程度わかる　　３．あまりわからない　　４．全くわからない

問８　あなたは「しまくとぅば」講座や「しまくとぅば」関係のイベントに参加したことがありますか。

１．参加したことがある　　２．参加したことはない

問９　あなたは人と話すとき、「しまくとぅば」を使いますか？

１．「しまくとぅば」を主に使う
２．「しまくとぅば」と「共通語」を同じぐらい使う
３．あいさつ程度使う（ハイサイ等）
４．あまり使わない
５．まったく使わない

問 10　あなたがしまくとぅばを使う相手は誰ですか？（○はいくつでも）

１．祖父母　　２．父母　　３．夫・妻　　４．兄弟　　５．子供　　６．友達
７．親戚　　８．職場の同僚　　９．その他（　　）

問 11　あなたは、ビジネスや公共の場で「しまくとぅば」を使ってもいいと思いますか？

１．そう思う　　２．ややそう思う　　３．どちらともいえない
４．あまりそう思わない　　５．そう思わない

問 12　普段の生活の中で「しまくとぅば」は必要だと思いますか？

１．非常に必要だと思う　　２．ある程度必要だと思う
３．あまり必要でないと思う　　４．まったく必要はない

問 13　今後「しまくとぅば」を普及させるためにどのような事をすべきだと思いますか？（○はいくつでも）

１．学校のクラブ活動・総合学習等での実施　　２．しまくとぅば講座を開設
３．官公庁でのしまくとぅば使用　　４．民間企業でのしまくとぅば使用
５．テレビ、ラジオ等マスコミを利用したＰＲ　　６．しまくとぅばスピーチコンテスト
７．しまくとぅば検定試験

※総合学習とは、教科（英語や国語、算数・数学など）の授業ではなく、各学校で自由に設けた主題に沿って行う学習

問 14. あなたは子どもたちに「しまくとぅば」を使えるようになって欲しいですか？

１．是非、使えるようになって欲しい
２．できれば、使えるようになって欲しい
３．あまり、使えなくてもよい
４．まったく、使えなくてもよい

問 15. 英語や国語、算数・数学などの教科の授業を減らして、学校の授業に「しまくとぅば」を加えることをどう思いますか？

１．他の教科の授業を減らしてでも、是非、加えて欲しい
２．総合学習の時間やクラブ活動、行事など教科の授業以外の活動で取り組んで欲しい
３．どちらともいえない
４．まったく加えなくてもよい

【問３】で「１．子どもがいる」とお答えの方におたずねします。それ以外の方は調査終了です。

問 15. あなたは家庭内で子どもに対して「しまくとぅば」を教えるようにしていますか？

１．積極的に教えている　　２．時々教えている　　３．ほとんど教えることはない

ご協力ありがとうございました。

平成３０年度
しまくとぅば県民意識調査
報　　告　　書

平成３１年３月
沖　　縄　　県